

厚生労働行政推進調査事業費補助金（食品の安全確保推進研究事業）  
「国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究」  
分担研究報告書

「コーデックスにおける組織横断型・ガバナンス問題及びリスクコミュニケーション」

研究分担者 松尾真紀子 東京大学 公共政策大学院 特任講師

研究要旨：

本研究は研究期間を通じてコーデックス一般原則部会（CCGP）等における議論を中心として、国内外の食品安全に関するトピック・課題等を抽出・分析し、その結果をもとにわが国への政策提言や、食品安全に関するシンポジウム等を開催し、海外や日本の状況について普及啓発活動を行うことを目的としている。

CCGP における主要な論点については、前研究班の研究開始（平成 26 年度）以来分析を行ってきたところであるが、部会が 2016 年の 4 月を最後として現在閉会中であることから、CCGP での議論の再開と同時に取り組む予定である。本年度、本研究はリスクコミュニケーションとネットワーク構築に注力した。本年度は、本研研究班主催、厚生労働省、農林水産省、消費者庁及び東京大学政策ビジョン研究センターの共催を得てシンポジウムを開催することで実施した（2018 年 3 月 9 日（金）東京大学本郷キャンパス、ダイワハウス石橋信夫記念ホール）。コーデックスにかかわる海外の関係者（コーデックス議長、事務局、コーデックスの部会の議長及びその経験者）を招へいし、コーデックス委員会における、最近の動向や今後の課題についての情報提供を行うとともに、参加者との直接の議論の場を設けた。これにより、日本のコーデックス委員会に関する活動への理解の促進に寄与することを目的とした。講演では、コーデックスにおける現在及び今後の課題を考えるうえでは、国際的な文脈に立ち全体を俯瞰する視点、多様性と包括性の確保、明確なビジョン形成・共有と戦略的な対応の実践が重要との指摘があった。コーデックスでは現在戦略計画が策定されているところであるが、日本として、何が最優先に取り組むべき国際的課題なのか十分に検討し、コーデックスにおけるコンセンサス形成に寄与することが重要である。また、今回のシンポジウムはコーデックスのウェブサイトでもニュースとして掲載された。これまでの研究班が継続的に行ってきたコーデックスにかかわるシンポジウムも含めて国際的に発信できたことは極めて大きな成果といえる。

## A. 研究目的

本研究は研究期間で、以下の二つの活動を行う。一つは、コーデックスの一般原則部会（CCGP）における重要トピックにつき、合意形成プロセスにおける論点を、国際政治・公共政策学的観点から分析し、各国のポジションや利害関係の把握と論点の整理分析を行う。CCGP はコーデックスのすべての部会に横断的にかかわる手順や一般事項について付託を受

けた場合に検討を行う部会<sup>1</sup>であり、特にコーデックスのガバナンス上の課題を検

<sup>1</sup> Procedural Manualに記載されているCCGPのTORは以下（Procedural Manualより）。To deal with such procedural and general matters as are referred to it by the Codex Alimentarius Commission, including:

- the review or endorsement of procedural provisions/texts forwarded by other subsidiary bodies for inclusion in the Procedural Manual of the Codex Alimentarius Commission; and
- the consideration and recommendation of other amendments to the Procedural Manual.

討するうえで重要な部会である。したがってそこにおける議論が生じた際には、日本の戦略的なコーデックス対応に資する情報ベースの整理分析を行う。

もう一つは、国際・国内のシンポジウムの開催等により、国内外の行政、業界、アカデミア、消費者団体等、多様な主体との交流の機会を設け、広い意味でのリスクコミュニケーションとネットワーク構築を図ることである。これにより、議論の連携、国内におけるコーデックス活動に対する認識と支持の向上を得ることを目的とする。

## B. 研究方法

一つ目の CCGP におけるプロセス分析とガバナンス上の課題については、前研究班の研究開始（平成 26 年度）以来継続的に分析を行ってきたところであるが<sup>2</sup>、部会が 2016 年の 4 月を最後として現在閉会中であることから本年度は行っておらず、CCGP での議論の再開と同時に取り組む予定である。

二つ目のリスクコミュニケーションとネッ

---

<sup>2</sup> CCGP におけるこれまでの議論の経緯については、以下の平成 26 年度から平成 28 年度の報告書参照。松尾真紀子（2017）「コーデックス一般原則部会における交渉プロセス及びガバナンス課題分析」『厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究、平成 28 年度分担研究報告書』pp. 250-261。

松尾真紀子、江津爽「コーデックス一般原則部会における交渉プロセス及びガバナンス課題分析」『厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究、平成 27 年度分担研究報告書』pp. 199-287。

松尾真紀子、浅田玲加、岩崎舞、鬼頭未沙子「コーデックス一般原則部会における交渉プロセス及びガバナンス課題分析」『厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究、平成 26 年度分担研究報告書』pp. 273-282。

トワーク構築の目的についても、平成 25 年度以来継続的に取り組んできた（詳細は添付資料 3。これまで厚生労働省の研究班が主催・共催してきたコーデックスイベントを参照）。本年度は、本研究班の主催<sup>3</sup>で「コーデックス委員会の将来の展望と課題（Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius）」を開催した（2018 年 3 月 9 日（金）東京大学本郷キャンパス、ダイワハウス石橋信夫記念ホール）。シンポジウムでは、コーデックスにかかわる海外の関係者（コーデックス議長、事務局、コーデックスの部会の議長及びその経験者）を招へいし、コーデックス委員会における、最近の動向や今後の課題についての情報提供を行うとともに、参加者との直接の議論の場を設けた。これにより、日本のコーデックス委員会に関する活動への国民の理解を促進に寄与することを目的とした。

## C. 研究結果

1. 「コーデックス委員会の将来の展望と課題（Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius）」シンポジウムの内容

上述の通り本年度は、2018 年 3 月 9 日東京大学本郷キャンパス、ダイワハウス石橋信夫記念ホールにて、本研究班の主催する形で「コーデックス委員会の将来の展望と課題（Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius）」を開催した（当日の発表者の資料は、添付資料 1。コーデックスイベント関係配布資料を参照）。なお、本シンポジウムの内容については食品衛生研究にも一般向けに加筆・要約して掲載し、広く周知する予定である。

具体的な進行は以下の通りである。本研究班代表の川西徹（国立医薬品食品衛生研究所 所長）より開会挨拶後、前半は、コーデックスの現在と未来（The Present

---

<sup>3</sup> 厚生労働省、農林水産省、消費者庁及び東京大学政策ビジョン研究センターが共催。

and the Future of Codex) と題し、コーデックス事務局長の Tom Heilandt (トム・ハイランド) 氏と、現コーデックス議長の Guilherme Antonio da Costa Júnior (ギリアム・アントニオ・ダ・コスタ Jr) 氏から二つの基調講演がなされた。

次に、後半は個別部会における将来展望と課題について取り上げ、コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会 (CCFICS) の議長である Fran Freeman (フラン・フリーマン) 氏と、コーデックス食品表示部会前議長である Paul Mayers (ポール・メイヤーズ) 氏から講演がなされた。そして最後に本研究班の研究分担者でもある、山口大学共同獣医学部の豊福 肇氏が総括を行った。当日は 104 名の参加があり、補助席を出すほどの関心の高さであった。また、会場からも活発な質疑応答が行われた。

以下、基調講演等の概要について紹介する (なお、当日の発表者の各報告・発言は各発表者の個人的な見解としてなされたものである。また、本報告は当日の上記発表者による発表・発言を筆者の理解に基づき整理したものである)。

① 基調講演：コーデックスの現在と未来 (The Present and the Future of Codex) コーデックス事務局長の Tom Heilandt (トム・ハイランド) 氏

トム・ハイランド氏は、2005 年よりコーデックス事務局で上席コミュニケーション官 (Senior Officer responsible for communication) として勤務し、2014 年 10 月に事務局長となり、現職に至る。

はじめに、コーデックスは、人間が生きていくうえで不可欠な食品と水を取り扱っていること、その食品は十分な量、栄養、安全性の確保が重要であること、食品が生産から消費者の食卓に届くまで、関与するすべての関係者が責任を有することが述べられた。とりわけ食の安全は、日本や EU といった先進国のみならず、すべての国が同等に確保されなければならぬとした。

次にコーデックスの概要について紹介された。コーデックスは、消費者の健康保護、公正な食品貿易の確保を目的とし、1961 年から 1963 年の間に FAO と WHO の間で設置された。そして単に規格の策定、機能の維持をするだけでなく、年間 20 近く開催される関連部会の会議を通じて、関係者のネットワークも構築しているとした。加盟国は 188 か国 (東ティモールが最近加盟して追加された) と 1 加盟主体 (EU) で世界のほぼ 99% をカバーしている。さらに 200 を超えるオブザーバーも参加している。時にコーデックスはビジネス偏重と言われることもあるが、オブザーバーは NGO、アカデミア、UN 関連組織にオープンであり、透明かつ包括的になっているとした。

基準策定については、科学に基づき、国際的なコンセンサスをベースとして策定していることが紹介された。コーデックスの規格基準自体は自主的なものであるが、貿易を円滑にするためルールの調和を目的とする WTO (世界貿易機関) の SPS 協定、TBT 協定も関係する。SPS 協定は衛生と植物防疫のための措置であり安全性に関する。もし加盟国がコーデックス基準以上に厳しい基準を導入する場合は科学的評価に基づいて説明する必要があると述べた。一方 TBT 協定は貿易の技術的障害に関する協定で、表示などが関連するとした。

コーデックスの意思決定の仕組みについては、組織図に基づき論じた。意思決定を担うコーデックス委員会は、通常ジュネーブかローマで開催され、毎回 600 ~ 700 人の政府代表者が 140 か国以上から参加している。コーデックス委員会は、その意思決定を支える執行委員会と、4 つの委員会—すなわち、水平的一般問題部会、垂直的個別部会、特別部会、地域調整部会がある。そしてこれらの委員会は議長国によって運営されている。こうした活動を通じて、今まで 191 の個別食品規格、73 のガイドライン、51 の実施規範、個別の基準が汚染物質 (17)、添加物 (3770/301)、残留農薬 (4347/196)、残留

動物用医薬品（610/75）が策定されてきたとした。

コーデックスのガバナンスについては、Procedural Manual があり、その手順に基づくとともに、5年に一度ビジョン・目的・計画をまとめる5年戦略計画（5 year strategic plan）が策定されるとした。現在の戦略計画が策定中であり、これにはSDGs（持続可能な開発目標）への貢献といった視点も入っている。規格そのものの策定については、迅速手続きもあるが、通常は8つのステップからなっており、加盟国等の要請を執行委員会が検討したうえで委員会の承認を得て行うことが紹介された。

コーデックス事務局の体制については、国連職員として雇用された8名の職員と、5名の専門職員と、5名の一般事務職員（編集や翻訳等を担う）、国からの派遣職員（日本と韓国）、1名の準専門職員（ドイツ）、1名の派遣専門家（中国）、5名のコンサルタントから構成されるとした。

さらに予算についても紹介された。コーデックス事務局の予算のうち半分はおよそ8,800万米ドル（そのうち80%はFAOで残り20%がWHOにより賄われている）で、残り半分はコーデックス議長国政府によって賄われている（この議長国政府分は事務局に対して支払われるわけではなくその議長国が担う個別部会の運営に直接使用される）。なお、科学的助言の予算については含まれないとした。

コンセンサス形成におけるこれまでそして現在の課題については、グリーンオレンジ<sup>4</sup>、遺伝子組換え食品の表示、成長ホルモン<sup>5</sup>、食品添加物、ビタミン<sup>6</sup>、乳児

用調製乳<sup>7</sup>、プロセスチーズなどが議論されてきたとした。そのうち、消費者誤認を招くような食品にかかわる問題を事例に具体的に論じた。一つは、食品があたかも新鮮であるかのように見せかけるための着色料の利用に関してで、こうした利用は消費者誤認を招くため許されるべきでないとした。また、実際には主成分が水と添加物のみでメイプルが全く入っていないにもかかわらず、メイプル（風味の）シロップと表示して売る商品に関しても、安全上の問題はないかもしれないが、商品の中身と表示が一致しておらず、消費者誤認を招くことから個人的にはすべきでない指摘した。

最後に、コーデックスを取り巻く環境は、人口の増大、世界的な食品の移動の増大、世界市場への参入国の増加、多様で新たな生産手法の増加、公衆の健康と安全意識の高まり、新たな販売経路など、様々な変化にさらされているとし、こうした新規の課題に取り組んでいかなければならないとした。とりわけ、ネット販売など新たな販売経路の取り扱いについては同時期に日本で開催された世界食品安全イニシアチブ（GFSI）においても議論されたとした。こうした変化の中、食品安全と質の確保がビジネスとして成り立つようにするための調和したルールの必要性が高まっており、コーデックス委員会が果たす役割は益々増大しているとした。そして、こうした問題に取り組むうえでは、戦略的かつ迅速に<sup>8</sup>対応していくこと、オンライン会議など新たなツールを積極的に取り込んでいくことが必要であると指摘した。

<sup>4</sup> オレンジの熟成はオレンジ色になってからと主張する国と、色がグリーンのままでも熟成したと主張する国があり、最終的には糖度やsugar-acidの量をもとに規格を策定したという事例。

<sup>5</sup> ある国にとっては少ない餌で成長が早くなるという飼育法は受け入れられる一方、そうでない国もある。そうした状況の中残留値を策定すべきなのかという問題が議論された。

<sup>6</sup> サプリメントにおける過剰摂取に関して。

<sup>7</sup> そもそも乳児用調整乳を使用すべきでないとする団体は規格の策定に反対した。

<sup>8</sup> 規格策定には平均4.2年が要されてきた。

② 基調講演：コーデックスの現在と未来 (The Present and the Future of Codex) コーデックス議長の Guilherme Antonio da Costa Júnior (ギリアム・アントニオ・ダ・コスタ Jr) 氏

ギリアム・コスタ氏は、ブラジル農業・畜産・食糧供給省の農業と国際関係に関する事務局に所属している。1992年にブラジルの初代コーデックス政府代表団のヘッドを務めたほか、これまで食品安全と貿易に関する二国間・多国間の交渉を担ってきた。コーデックスでは、2014年から2017年まで副議長を務め、2017年7月の総会でコーデックス議長に選出された。

講演では、現在そして今後のコーデックスについて検討するうえでは、国際的な文脈に立って考えるべきであり、食糧安全保障と貿易の増大、食品安全が重要な課題であるとした。また、そうしたことを考える際には、農業慣行、食品加工技術の変化、機能性食品の広範な普及、複雑化したサプライチェーン、食生活・習慣といった様々な変化を考慮して戦略的に取り組む必要があり、そうした取り組みが十分になされないと、食品安全管理が機能せず、食品由来の疾病や死亡、失業、経済危機などをもたらしかねないとした。

次に、戦略的な対応をするうえでは、短期・中期・長期的視点にたち、戦略的ビジョン、コーデックスの中核的価値、目標・目的と活動、そしてそれぞれの活動に責任を持つべき主体、実践するためのスケジュール、期待される成果、計測可能な指標を明確にすべきとした。現在2020年からのコーデックス戦略計画を策定しているところであるが、これからの戦略計画を考えるうえで、現在のコーデックス戦略計画(2014年から2019年)は有効であり関連性があるとした。

現在の戦略目標の1~4は、それぞれ、

- ・ 戦略目標1: 現在そして新たに生じる食品に関連する問題についての国際食品規格の策定、

- ・ 戦略目標2: コーデックス基準を策定する際にリスクアナリシスの原則の適用の保証、
- ・ 戦略目標3: コーデックスメンバーの効果的な参加の促進、
- ・ 戦略目標4: 効果的かつ効率的作業管理システムと活動の実施

である。これらは、各々を一言で言い換えるなら、優先事項、科学ベース、包括性、改善ということになる。そして、このエッセンスは、現在議論・策定されている次の戦略計画でも引き継がれているとした。

2020年からの戦略計画の草案では、

- ・ 戦略目標1: コーデックス基準が、メンバーが示す現在そして新たな重要な問題をカバーしている、
- ・ 戦略目標2: コーデックス基準が科学に基づき、リスクアナリシスの原則に基づいている、
- ・ 戦略目標3: コーデックス基準が国際的に利用される、SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) に貢献、
- ・ 戦略目標4: コーデックスの活動にすべてのコーデックスメンバーが効果的に参加する、
- ・ 戦略目標5: コーデックスの作業管理システムと活動が効果的かつ効率的である、

が掲げられている。

戦略目標の1については、昨今の食品汚染物質に関して策定されたいくつかの基準値や規範<sup>9</sup>を事例に、コーデックスが

<sup>9</sup> 例として以下が挙げられた。

- ・ 食用油脂(魚油)の鉛とヒ素の最大基準値の改訂(食品及び飼料中の汚染物質及び毒素に関する一般規格 CODEX STAN 193-1995)
- ・ 特定の果実加工品及び野菜加工品(豆、ジャム、ゼリー及びマーマレード、トマト缶、栗及び栗ピューレの缶詰)中の鉛の最大基準値(CODEX STAN 193-1995)
- ・ コメ中のヒ素汚染の防止及び低減のための実施規範
- ・ 穀類中のかび毒汚染の防止及び低減に関

重要な課題に優先的に取り組んでいることを論じた。戦略目標の2については、コーデックスがリスクマネジメント機関としてFAO/WHOのリスク評価機関(JECFA、JMPR、JEMRA等)の科学的諮問に基づいて、リスクアナリシスの原則に基づいた意思決定をしていること、そこではFAO/WHOの科学的アドバイスの規定の明確化と専門家の助言を得るための十分な資源の確保が求められるとした。とりわけ、科学的アドバイスの基盤となるデータの創出が先進国のみならず途上国からも提供されることや、多様な技術的科学的専門家の参加が重要であり、そうした能力向上のプログラムが重要とした。戦略計画4の効果的効率的作業への改善に関しては、昨今アフリカで事務局により行われたコミュニケーションツールの提供について紹介があった。これは国内コーデックス部会にも有効であるし、また他の地域にも移転可能なものであるとした。

目に見えた活動・認知度の向上と意識・関心の喚起し、包括性を確保するうえで、国内のコーデックス部会(National Codex Committee)の強化と多様な主体の巻き込みが重要とした。コーデックスへのインプットのベースは、コーデックス資料の読み込み・分析とそれへのコメントであるが、国内のコーデックス部会が多様な主体(政府に加えて業界や消費者団体、アカデミア)で構成されていることで多様な意見を取り込めるとした。また、特に途上国にとって部会や会議を共催することは、国内におけるコーデックスへの認知喚起の上でも、上記多様な能力構築の上でも重要な一つの手段となるとした。コーデックス基準は国内で実際に用いられてこそ意味がある。国内における認知向上では、コーデックスの基準がすべての食品及び飼料の生産チェーンにおいて普及・適用されること

---

する実施規範(CAC/RCP 51-2003)の穀類中の麦角及び麦角アルカロイドに関する付属書

が求められる。コーデックスのそれと知られずに用いられるくらい浸透すれば、それは素晴らしいことで、実際そういう事例をラテンアメリカ地域調整部会でも見てきたと述べた。これには、理解可能な情報に落とし込むこと、また、官民連携パートナーシップ、官民のトレーニングプログラムの実施も重要と認識するに至ったと論じた。

国連で採択されたSDGsのゴールではコーデックスの活動に関連するものも多く<sup>10</sup>、コーデックスがこの達成に貢献できるよう戦略計画策定の際に心にとどめておく必要があるとした。

最後に、将来のコーデックスを考えるうえでは、加盟主体(とその国内コーデックス部会)、部会の各議長、事務局、FAO/WHO合同専門家会議、議長と副議長のすべての主体・団体が責任をもって取り組む必要があり、優先事項を戦略的に策定することが重要とした。

③ 個別部会に関する講演：CCFICS Challenges, future developments (CCFICSの課題と将来) コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会議長 Fran Freeman (フラン・フリーマン)氏

フラン・フリーマン氏は、豪州農業・水資源省の輸出局における第一次官補(First Assistant Secretary)である。コーデックスでは食品輸出入検査・認証制度部会(CCFICS)の議長を務めている。

まずCCFICS、食品の輸出入の増大に伴い、検査・認証にかかわる政府・監督主体間の情報のやり取りや手順のメカニズムが必要となったことから、1991年にオーストラリアを議長国として設置された

---

<sup>10</sup> 直接関係するゴールは、2：飢餓をゼロに、3：すべての人に健康と福祉を、12：つくる責任、つかう責任、17：パートナーシップで目標を達成しよう、その他、関連するものとして、1：貧困をなくそう、8：働きがいも経済成長も、13：気候変動に具体的対策を、14：海の豊かさを守ろう、15：陸の豊かさを守ろう、が挙げられた。

ことが紹介された。

WTO の SPS 協定の第 4 条では「同等性」に関する規定があり、加盟国が異なる衛生植物検疫に関する措置を講じていたとしても、輸出国の措置が輸入国の措置と同等の適切な保護水準を満たしていると示された場合、輸入国はそれを受け入れなければならないと規定している。CCFICS は、食品輸出入検査・認証制度における措置の同等性の原則を実施するうえで有用な、品質保証システムの利用のためのガイドラインや、公的な証明書に関するガイドラインと様式の基準、情報交換に関する勧告などを策定している。具体的には、国の食品管理システム、食品輸入管理システム、証明書、トレーサビリティ、情報交換、国の食品管理システムの規制面での実施状況のモニタリング、衛生上の措置の同等性、同等性の合意などの文書をこれまでに策定してきた。

文書策定に当たっては、その基盤に、コーデックスの原則である、消費者の健康保護と公正な食品貿易をベースに、かつ、科学・リスクベースに基づき、WTO に整合的であるよう必要以上に貿易制限的でないようにすることを置いているとした。

さらに、将来的な課題に対応できるよう、常に最新のベストプラクティスや新たなテクノロジーに基づき検討を継続していることが紹介された。新たな食料生産技術も、より進化した分析及び試験技術も、国際的な食品管理上大きなインパクトをもたらさうし、電子取引と ICT の普及は管理システムにも利用されることで様々な影響を持ちうる。

また、安全でない食品が市場に出回りリスクが生じた際に消費者を保護するトレーサビリティやリコールなどの仕組み、食品の清廉性 (integrity) / 信憑性 (authenticity) への関心の増大、といった問題を受けて、貿易にかかわる国境検疫などの規制当局役割が増大しているとした。そして、このような変化に対応できるよう、システムの同等性の使用に関するガイダンス、ペーパーレス電子証明を

取り入れるため、公式証明書の一般的フォーマット及び証明書作成と発行と利用に関するガイドラインの改訂、食品安全及び食品貿易の公正な慣行における第三者認証スキームへの規制アプローチに関するガイダンスなどが策定され、また、食品の清廉性/信憑性(食品偽装)に関する討議文書が検討されていることが紹介された。

とりわけ、食品流通のスピードが加速する今日、増加するリスクを軽減し、消費者の要求と消費者意識を満たすための効果的かつ効率的な管理を確保し、先進国のみならず途上国食料安全保障にも配慮しつつ (安全な食品が拒否されるのを避ける)、リスクに基づいたシステムを常に維持していくことが肝要とした。このように急速に対応が迫られるものの、CCFICS の本会議は 18 か月に 1 度の開催であることから、本会議を補完する物理的作業部会を開催しているが、その際に積極的にウェビナーなど新たな技術を試用していることが紹介された。昨今では、例えばチリで開催された物理的作業部会 (2017 年 12 月 12~14 日) で、ウェビナーを通じてノルウェー、タイ、ウルグアイなどが参加し、その場で文書に貢献することができたとした。

最後に CCFICS は「今後の課題と新たな課題」を常に本部会の議題に含め、食品の検査と認証において生じ得る新たな課題と問題を特定し対応していくと締めくくった。

④ 個別部会に関する講演：Future Prospects and Challenges at CCFL (CCFL における将来展望と課題)、コーデックス食品表示部会前議長 Paul Mayers (ポール・メイヤーズ氏)

ポール・メイヤーズ氏は、現在カナダ食品検査庁 (CFIA) の科学担当副長官 (Vice-President of Science) である。これまでカナダ保健省において食品安全や栄養にかかわる政策を主導するとともに、2006 年に CFIA に入庁して以降は、政策

及びプログラム担当副長官（the Vice-President of Policy and Programs）を含む高官を歴任してきた。また、コーデックスをはじめ、多くの国際交渉の場で代表や代表団の長を務めた。コーデックス委員会では、副議長を2期に渡って務めた経験の持ち主である。

まず1965年にCCFLが設置されて以来、カナダが議長国として表示に関する規格の策定に関与してきたことが述べられた。通常CCFLには、60のメンバー国、1メンバー組織（欧州連合）及び20を超える国際NGOから約250名の代表者が出席することが紹介された。

そして、コーデックスで難しいのは、すべての加盟主体の関心を反映する、一つの国際規格を策定することであるとした。とりわけ、CCFLが扱う「表示」は、事業者にとっては市場に数多ある商品の中から自分の商品を選んでもらうための手段であるのに対し、消費者にとっては自分の関心がある情報の源であり、こうした二つの目的が時に本質的に緊張関係を持ちうるとした。さらに、有機の表示やバイオテクノロジー応用食品の表示の事例で見られたように、「科学ベース」で物事が決まるコーデックスのほかの部会に比して、表示の問題は極めて異なる主観的価値観を伴うと論じた。これはすなわち、感情にかかわる問題において一体どのように基準とするのか、という難しい問題であると述べた。表示の主観的な特性は、科学と文化、異なるニーズと意見、消費者の認識といった複雑を伴うし、また、表示がもつ貿易上の含意も考えると常に食品貿易における公平な取引への配慮を認識する必要もあり、それらのバランスを見つけることは大変である。しかしこうした難しさがあいながら、投票のような手段に訴えることなく合意形成ができた際にはやりがいもあると述べた。そして表示を考えるうえでは、「情報は正しくなくてはならない（Truthful and not misleading）」ということ肝に銘じておくことが大事だとした。

次にこれまでのCCFLの活動について紹介された。CCFLでは、包装食品の表示、栄養表示、栄養及び健康強調表示、バイオテクノロジー応用食品の表示及び有機食品の表示を含む多数のコーデックス食品規格、ガイドライン及び勧告を策定してきた。とりわけGM表示に対する考えは国によって異なりきわめて感情的な議論となったとした。最終的には10年以上にわたる議論の末、「これをするべき」という一つの基準を策定するのではなく、異なる国が異なる基準作りをしたとしても、その基準のベースとして参考になるものをコーデックスは提供できるので、そこにガイダンスを提供することで、市場における企業や消費者の予測可能性（predictability）を高めることに貢献することとしたことが紹介された。

現在CCFLでは、卸売用食品の包装の表示（個別の複数基準にするよりも、単独の文書にガイダンスをまとめる）や、栄養に関する包装の前面表示といった問題に取り組んでいることが紹介された。特に栄養に関する包装の全面表示に関しては、消費者にとって意味のある情報を提供し、かつ公正な貿易慣行を確保する、科学と価値観とを橋渡しするよい例の一つといえるとした。

さらに、合意形成が成功するための方策として、アカデミアのコーデックスへの貢献について論じた。科学的根拠に関するアカデミアの貢献が重要であることはすでにコーデックスでは定着しているが、特に社会科学の知見はこれまでコーデックスで有効に活用されてきたとは言えないとした。そして公衆の行動をよりよく理解し、エビデンスに基づく検討を行う上で、社会科学の活用が求められるとした。その他の合意形成促進のための方策としては、積極的参加、協同、相手を理解しようとする意欲、柔軟性と妥協する意欲、創造的な思考が重要と指摘した。議長の経験からは、参加者それぞれ全員が少しの不満を持って帰ってくれるのが良いと思っていると述べた（それは誰かが100%満足したということになら



ず、それぞれが少しずつ妥協し、でも不満は最小限であるから)。また、成果達成においては、従来の作業部会（会合間、会合前、会合中に開催される電子的&物理的作業部会）やワークショップに加えて、新たにファシリテーションなどの活用も重要だとした。特にファシリテーションは GM 表示の際に活用したが、対話の増進と関心の橋渡しで有用であったとした。

2017年10月に開催されたCCFLでは、次回会合（2019年）までに検討する潜在的な新規作業に関する討議文書を策定することに合意したが、その作業には、インターネット販売/eコマースの表示（英国、日本、チリ、インド、ガーナ）、アレルギー表示の更新（英国、米国）など<sup>11</sup>があることが紹介された。また今後はゲノム編集なども入ってくるかもしれないとも述べた。

最後に、今後新たな問題、優先事項や潜在的な将来の作業を特定するためには、既存の国際協同のメカニズムに加え、政府内での学術界の積極的な関与（とりわけこれまで十分でない社会科学的研究の貢献）を通じて実践し、常にCCFLの文書が活用可能な「生きている文書」として維持されていかなければならないと述べた。そして、そうしたことを実施するうえでは、明確で、共有されたビジョンを持つこと、世界市場の変化に対し、積極的に対応すること、合意に達するために協同して取り組むこと、CCFLの作業をより知らせるために新たな協力体制を構築することといったことが重要であるとした。

以上の4名の講演に続き、最後に全体総括とまとめが本研究班の豊福肇よりな

<sup>11</sup> その他、技術革新を活用した食品表示（カナダ）、アルコール飲料の表示（ロシア、EU、ガーナ、インド、セネガル）、脂質・糖類・ナトリウムの「高」表示（カナダ、インド）、マルチパックされた製品の表示（コロンビア）。

された。

## D. 考察

### 1. シンポジウム講演からの示唆及びリスクコミュニケーション・ネットワーク構築の展開における含意

#### (1) シンポジウム講演からの示唆

まず、各演者の講演からの示唆としては、以下3点が挙げられる。一つ目は、コーデックスにおける現在及び今後の課題を考えるうえでは、国際的な文脈に立ち全体を俯瞰することの重要性である。この点については事務局長も議長も論じていたが、人口増加、食品安全保障問題の深刻化、世界的な食品貿易の増大、食品安全性確保の重要性に対する意識の高まりなどの大きな国際的環境変化を十分に踏まえる必要がある。その際に、SDGsなど国際社会全体のニーズにも留意し、貢献することも意識しておくことが求められる。また特にすべての演者が重視していたのは、多様な生産手法の増加と多様な販売流通網の登場である。特にIT化やeコマースなどでネットを通じた販売網が急速に進展しており、従来の農場から食卓までの原材料・加工ルートとはかなり変わってくる可能性がある。こうした議論はGFSIでも行われ、各主体の関心事であったようである。

二点目は、多様性と包括性の確保である。先進国のみならず途上国、そして企業、NGO、アカデミアなど多様な主体を包含することが大事である点がすべての演者から論じられた。これは、科学的データの生成や提供においても多様な国々からの提供が必要であるし、多様な意見を取り込むうえでも重要である。特に科学的知見だけで物事が決まりにくい表示などの問題では、社会科学など異なるディシプリンを包含することも重要である。また、多様な意見の吸い上げにおいては国内コーデックス委員会（日本の場合はコーデックス連絡会議がそれにあたるかと思うが）の強化と多様性の向上が重要

とされた。

三点目としては、多様な参加主体のコミットメントに基づく、明確なビジョン形成・共有と戦略的な対応の実践である。コーデックスでは現在戦略計画が策定されているところであることが事務局長と議長から紹介されたが、予算もリソースも限られた中、効率的かつ効果的に目的を達成するには、まず何を実践すべきなのかを戦略的に優先順位をつけて行っていく必要がある。特に加盟国の重視する優先的事項は国によって異なるのでコンセンサス形成が重要となってくる。こうした指摘を踏まえ、日本として、何が最優先に取り組むべき国際的課題なのか十分に検討し、今後の戦略計画に盛り込んでいく必要がある。

## (2) 広い意味でのリスクコミュニケーション・ネットワーク構築の展開における含意

### ① アンケート結果と今後の課題

今回のシンポジウムに関して、アンケートを行った結果（参加者数：104、回答数：66、アンケート回収率：63.5%）、ほぼ88%の人が満足もしくはやや満足と回答し、満足度は非常に高かった<sup>12</sup>。またこのシンポジウムを通じて、コーデックスに興味を持ったかという質問に対しては、約90%の人が興味を持った・もしくは少し興味をもった<sup>13</sup>とし、多くの人の興味を喚起した。また特に興味を持った部会は今回のシンポジウムで紹介があった部会に集中した<sup>14</sup>。とりわけ、表示は関心が高いことが分かった。

<sup>12</sup> 満足38名、やや満足20名、どちらともいえないが6名、その他が1名、不満、やや不満の回答は0であった。

<sup>13</sup> 興味を持ったが51名、少し興味を持ったが9名、どちらともいえないが1、その他2。その他と回答した人でもコーデックスについては既に知っていたものの、その中心の人の話が聞いて良かったという趣旨の回答。

<sup>14</sup> 表示部会が37名、CCFICSが12名、その他は少数回答。

今後取り上げてほしいテーマとしては、①日本における取組（コーデックス国内委員会の取組み、日本のコーデックスにおけるポジション）、②コーデックスに関するもの（JECFA等リスク評価機関、コーデックスのほかの部会の活動）、リスクコミの取組み（科学と価値観、専門家以外に対するコミュニケーションの研究）、③国内外における個別の食品事案や取組み（遺伝子組換え食品・ゲノム編集技術を用いた食品、乳・プロバイオティクス、包装容器、食中毒、食品偽装、フードテロ、HACCP、異物混入・回収、食品の生産流通販売・管理制度）など、多岐にわたるトピックが挙げられた。

属性は半分以上が行政関係者と食品関連事業者で占められた。これは共催各省のプレスリリースによる告知のインパクトが大きかった部分にもよる。今後、より関心を持ってもらう必要がある対象一般やアカデミア、将来を担う学生などにも参加者を拡大して行くには告知の仕方も工夫が必要と思われる。

今回は、GFSIの国際会議が日本で開催され、事前にコーデックスの議長、事務局長、その他、関連する部会の関係者が来日することが、研究班のメンバー等の協力により把握できたことで、このような豪華な演者によるシンポジウムを企画することができた。アンケート結果からもわかるように、海外の関係者から直接情報提供をしてもらうシンポジウムは毎回非常に好評で、コーデックスに対する理解にもつながるので、このような機会がある際には逃さないよう情報収集に努めたい。

### ② コーデックスウェブサイトを通じた国際的発信

これまで食の安全確保推進研究事業の研究班において継続的にシンポジウムの企画を通じて展開してきた（添付資料3. これまで厚生労働省の研究班が主催・共催してきたコーデックスイベント）が、それを講演者の一人であるコーデックス事務局長に伝えたところ、ぜひコーデッ

クスのニュースに取り上げたいとの申し出があり、コーデックスのウェブサイトを通じた発信ができた（添付資料2. コーデックスウェブサイト「Japan solidifies its Codex Symposium tradition」掲載記事（2018年3月16日）<sup>15</sup>。日本が継続的に取り組んできたことを、国内だけでなく、国際的に発信することも重要と認識した。

## E. 結論

本年度、本研究ではリスクコミュニケーションとネットワーク構築に注力した。具体的には、本研研究班主催、厚生労働省、農林水産省、消費者庁及び東京大学政策ビジョン研究センターの共催を得てシンポジウムを開催することで実施した。コーデックスにかかわる海外の関係者（コーデックス議長、事務局、コーデックスの部会の議長及びその経験者）を招へいし、コーデックス委員会における、最近の動向や今後の課題についての情報提供を行うとともに、参加者との直接の議論の場を設けた。これにより、日本のコーデックス委員会に関する活動への理解の促進に寄与することを目的とした。

各演者の講演からの示唆としては、以下3点が挙げられる。一つ目は、コーデックスにおける現在及び今後の課題を考えるうえでは、国際的な文脈に立ち全体を俯瞰することの重要性である。国際社会全体としてのニーズに留意し、また、新規の生産手法や販売網（IT化やeコマースなど）のような急速に変化する環境に対応していくことが重要とされた。二点目は、多様性と包括性の確保である。先進国のみならず途上国、そして企業、NGO、アカデミアなど多様な主体を包含することの重要性が指摘された。そこでは国内コーデックス委員会の多様化と強化も強調された。三点目としては、多様な参加主体のコミットメントに基づく、

明確なビジョン形成・共有と戦略的な対応の実践である。コーデックスでは現在戦略計画が策定されているところであるが、日本として、何が最優先に取り組むべき国際的課題なのか十分に検討し、コーデックスにおけるコンセンサス形成に寄与することが重要である。

なお、今回のシンポジウムはコーデックスのウェブサイトでもニュースとして掲載された。長年にわたり厚労省の研究班が継続的にコーデックスにかかわるシンポジウムを行ってきたことが国際的にも発信されたことは極めて大きな成果といえる。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

特になし

---

15

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1107530/>

## 平成 29 年度添付資料リスト

### 1. コーデックスイベント関係配布資料

1-1 国際食品安全シンポジウム『コーデックス委員会の将来の展望と課題』趣旨・プログラム

1-2 基調講演 1 「Future challenges and Prospects in Codex Alimentarius - PRESENT & FUTURE」

Tom Heilandt 氏（コーデックス事務局長）

1-3 基調講演 2 「Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius - The Present and the Future of Codex」

Guilherme Antonio da Costa Júnior 氏（コーデックス委員会議長）

1-4 基調講演 3 「CCFICS Challenges, future developments」

Fran Freeman 氏（豪州農務省、コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会議長）

1-5 基調講演 4 「Future Prospects and Challenges at CCFL」

Paul Mayers 氏（カナダ食品検査庁、コーデックス食品表示部会前議長）

2. コーデックスウェブサイト「Japan solidifies its Codex Symposium tradition」掲載記事（2018年3月16日）

- <http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/pt/c/1107530/>

3. これまで厚生労働省の研究班が主催・共催してきたコーデックスイベント

## 国際食品安全シンポジウム『コーデックス委員会の将来の展望と課題』

## -趣旨-

コーデックス委員会は、1963年にFAO（国連食糧農業機関）とWHO（世界保健機関）が合同で設立した政府間組織である。消費者の健康を保護し、公正な食品貿易を保証することを目的として、国際標準となる食品の規格（コーデックス規格）や基準・ガイドラインなどを定めている。本シンポジウムでは、コーデックス委員会の議長や事務局長を始めとする講師の方々に、コーデックスの現状と未来や、各部会のこれまでの活動や今後の展望についての講演を行っていただくことで、日本のコーデックス委員会に関する活動に対する理解を深めることを目的とした。

## -開催概要-

【日時】平成30年3月9日（金）13:30～16:40（開場 13:00）

【場所】ダイワハウス石橋信夫記念ホール（東京都文京区本郷7丁目3-1 東京大学大学院情報学環・学際情報学府 本郷キャンパス・ダイワユビキタス学術研究館）

【主催】厚生労働科学研究「国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際課戦略に関する研究」研究班（代表：川西徹 国立医薬品衛生食品研究所長）

【共催】

厚生労働省、農林水産省、消費者庁、東京大学政策ビジョン研究センター

## -プログラム-

全体司会進行：

松尾真紀子（東京大学政策ビジョン研究センター/公共政策大学院 特任講師）

開会挨拶 13:30～13:35

川西 徹（国立医薬品食品衛生研究所 所長）

基調講演1 13:35～14:10（発表30分、質疑応答5分）

「Future challenges and Prospects in Codex Alimentarius - PRESENT & FUTURE」Mr. Tom Heilandt（Codex Alimentarius Secretary）

基調講演2 14:10～14:45（発表30分、質疑応答5分）

「Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius - The Present and the Future of Codex」Dr. Guilherme Antonio da Costa Júnior（Codex Alimentarius Commission Chairperson）

基調講演3 15:00～15:40（発表30分、質疑応答10分）

「CCFICS Challenges, future developments」 Mr. Fran Freeman (豪州農務省、コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会議長)

基調講演 4 15:40~16:10 (発表 30 分、質疑応答 10 分)

「Future Prospects and Challenges at CCFL」 Mr. Paul Mayers (Vice-President of Science, Canadian Food Inspection Agency)

総括及び閉会挨拶 16:10~16:20 豊福 肇 (山口大学共同獣医学部)

#### ◆基調講演者 経歴

Tom Heilandt (トム・ハイランド), コーデックス事務局長

トム・ハイランド氏はドイツ国籍で、数学とコンピューターサイエンスの学位を有す。1990年から1992年までバイエル社でオペレーションリサーチ及び専門システムに関する業務に携わった。その後システムエンジニアとして、AION International に所属。1994年から1998年までジュネーブの国際連合欧州経済委員会 (UNECE)の事務局で危険物輸送の国際規制に取り組んだ。1998年から2005年までUNECEの農産物の品質基準に関する作業グループの事務局長を務めた。2005年より、コーデックス事務局で上席コミュニケーション官 (Senior Officer responsible for communication) として勤務。2014年10月にFAO及びWHOの事務局長からコーデックス委員会の事務局長を命じられた。

Guilherme Antonio da Costa Júnior (ギリアム・コスタ), コーデックス議長

ギリアム・コスタ氏は、現在ブラジル農業・畜産・食糧供給省の農業と国際関係に関する事務局に所属。2010年から2014年まで、ジュネーブの政府代表部の農業分野の大使館員として、世界貿易機関 (WTO) やその他の経済機関との業務に携わった。

1981年より農務省の獣医として、牛肉、乳製品、魚類の検査や規制に従事し、1992年には同国の初代コーデックス政府代表団のヘッドを務めた。衛生植物防疫交渉部長であった際には、食品安全と貿易に関する二国間・多国間の交渉を任された。

コーデックス委員会においては、2014年から2017年まで副議長に、2017年7月18日にコーデックス議長に選出された。

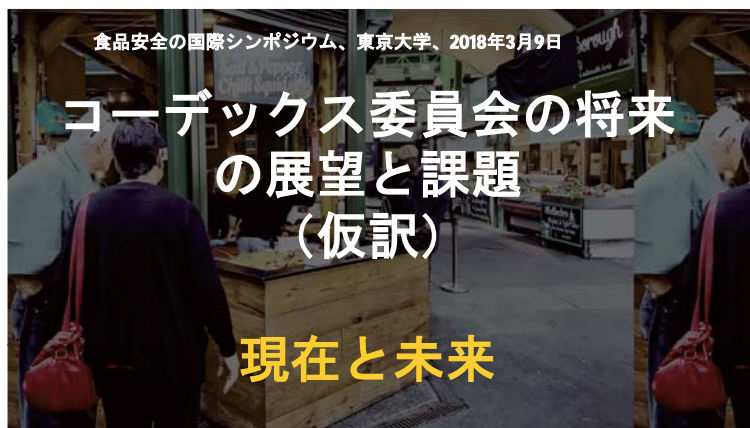
Fran Freeman (フラン・フリーマン), 豪州農務省、コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会議長

フラン・フリーマン氏は、豪州農業・水資源省の輸出局における第一次官補 (First Assistant Secretary) である。また、コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会 (CCFICS) の議長も務める。フリーマン氏は、多国間の国際的な、及び国内における農業政策やプログラムにおいてたくさんの経験を有し、それは、干ばつ、貿易、バイオセキュリティに関するものも含む。ニューイングランド大学において農業経済の学位を収め、2000

年には、豪州農村のリーダーシッププログラム (the Australian Rural Leadership Program) を修了した。さらに、農業分野における女性トップ 100 に二度選ばれた。

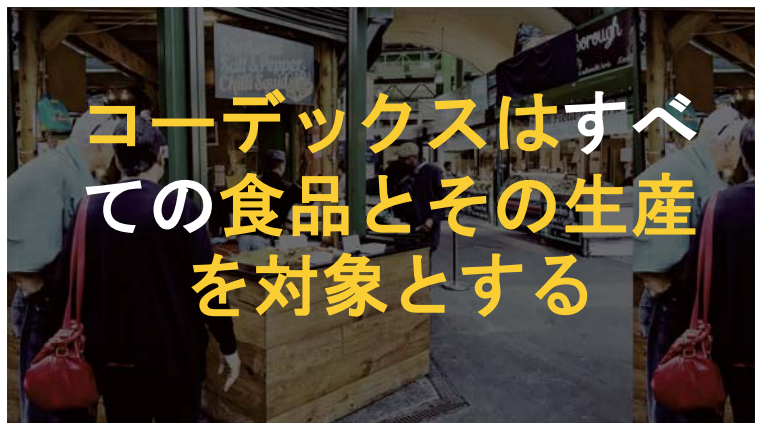
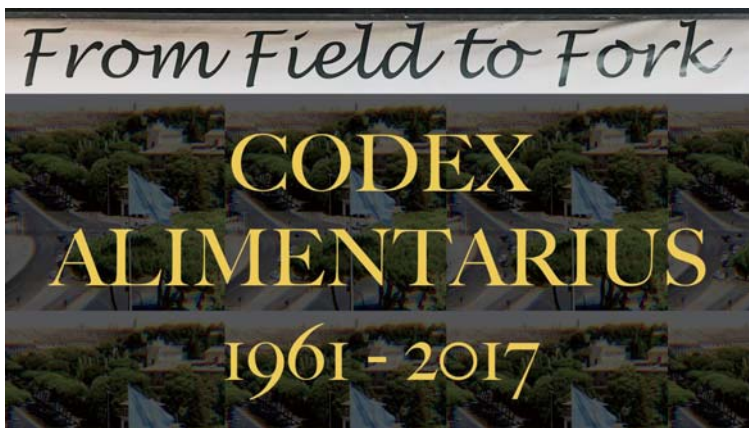
**Paul Mayers** (ポール・メイヤーズ) , カナダ食品検査庁、コーデックス食品表示部会前議長

ポール・メイヤーズ氏は、カナダ食品検査庁 (CFIA) の科学担当副長官 (Vice-President of Science) である。彼は、CFIA のマニフェストである、カナダにおける食品供給における人の健康保護と植物動物資源の保護に関する科学的アドバイスと研究の発展を主導している。また、同国における CFIA 研究所のネットワークが行う分析、試験サービスの責任者でもある。メイヤーズ氏は 2006 年の 4 月に CFIA に入庁、その後、政策とプログラムに関する政策及びプログラム担当副長官 (the Vice-President of Policy and Programs) を含む高官を歴任した。CFIA 入庁以前は、カナダ保健省において食品の安全と栄養品質に関する政策形成を主導した。国際的な場でも、コーデックスをはじめ多くの代表や代表団の長を務める。コーデックス委員会では、副議長を 2 期に渡って務めた。



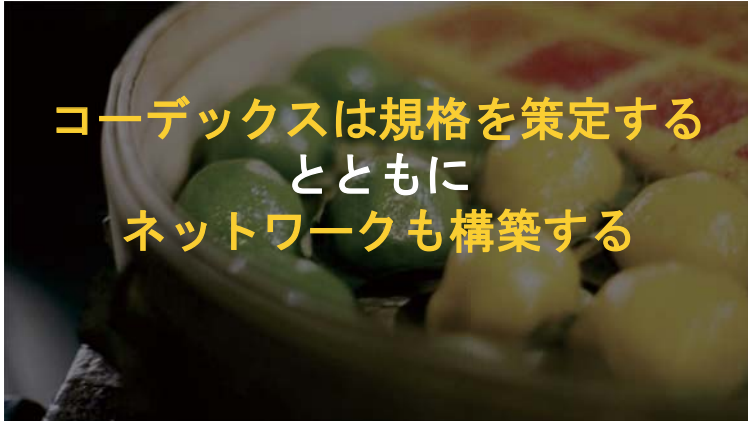








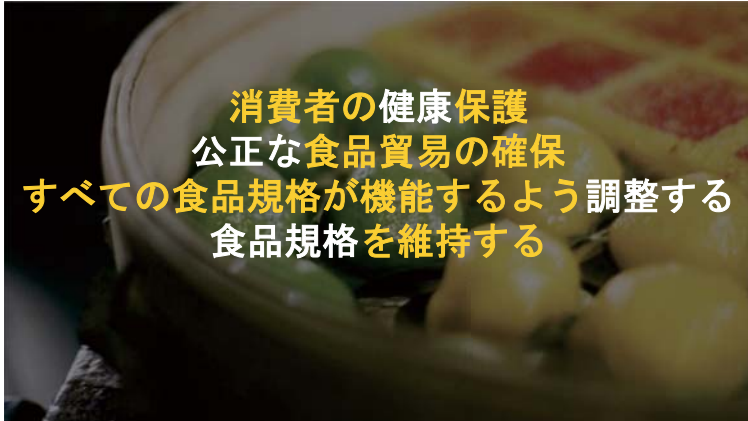
**We set standards  
and  
create networks**



**コーデックスは規格を策定する  
とともに  
ネットワークも構築する**




**Protect consumers health  
Ensure fair practices in food trade  
Coordinate all food standards work  
Keep the CODEX ALIMENTARIUS**



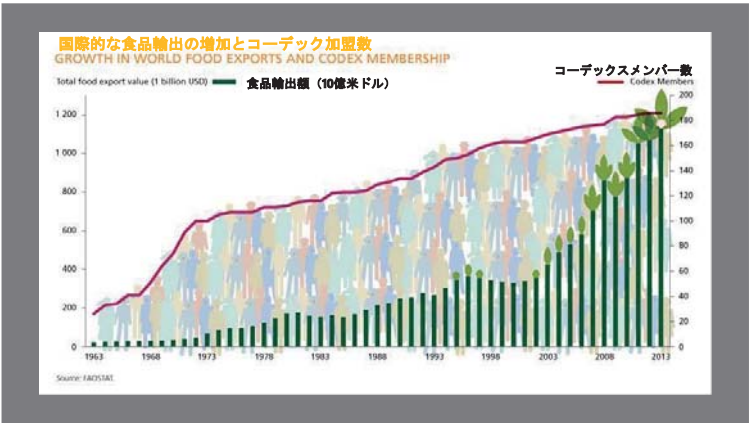
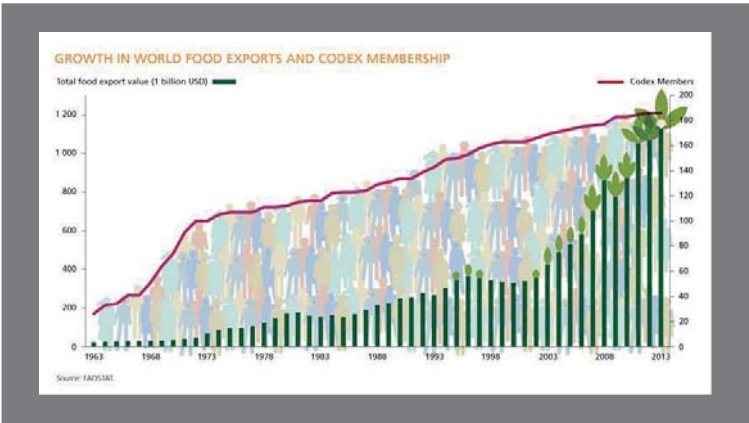
**消費者の健康保護  
公正な食品貿易の確保  
すべての食品規格が機能するよう調整する  
食品規格を維持する**



**Structure and process  
to find international consensus**

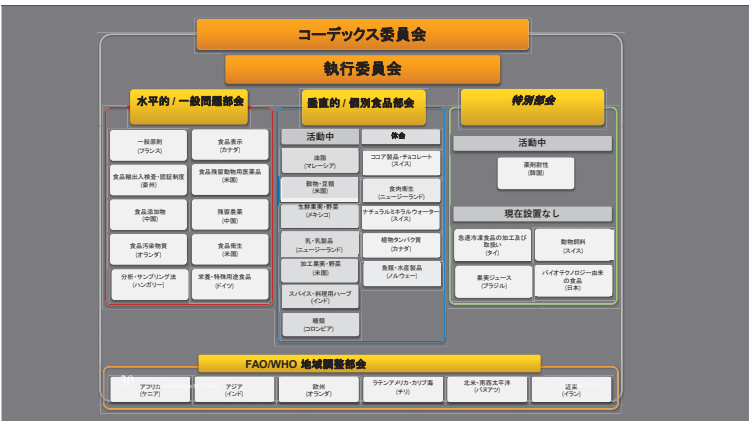
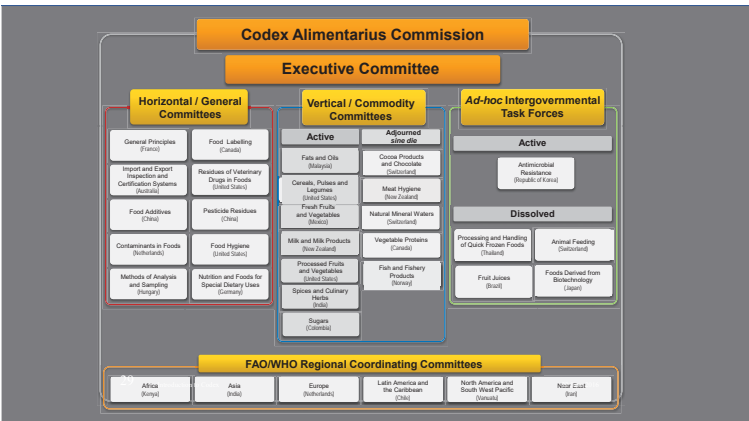


**国際的コンセンサスを探求する  
組織構造と手順**



**188+1 = 99%**  
**Voluntary**  
**Based on science**  
**Consensus, transparent, inclusive**  
**Harmonization of rules**  
**Reference in WTO-SPS (TBT)**  
**Invisible link in the supply chain**

**188+1 = 99%**  
**自主的**  
**科学に基づく**  
**コンセンサス、透明性、包括的**  
**ルールの調和**  
**WTO(世界貿易機関)-SPS 協定、(TBT協定)で参照**  
**※SPS: 衛生と植物防疫のための措置**  
**TBT: 貿易の技術的障害に関する協定**  
**サプライチェーンにもリンクしている**

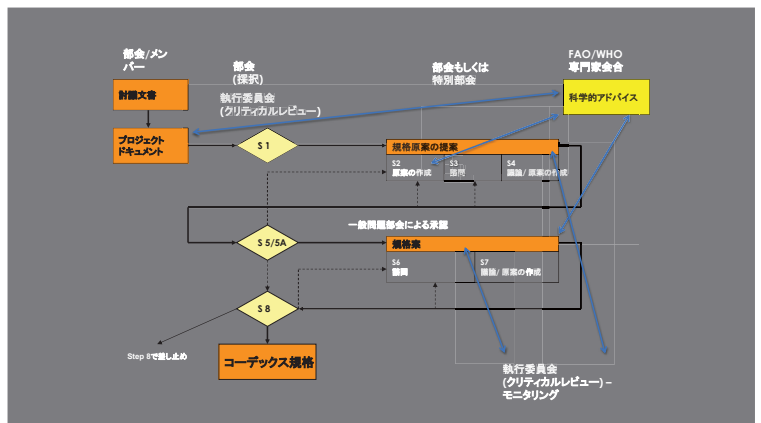
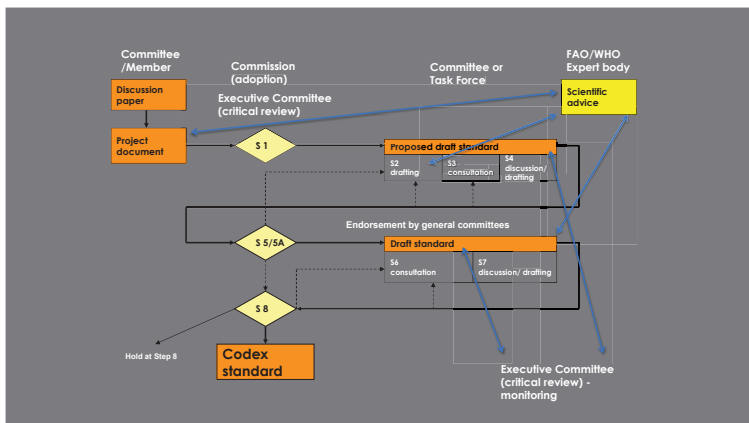


**Commodity standards 191**  
**Guidelines 73**  
**Codes of practice 51**  
**Contaminants 17**  
**Additives 3770/301**  
**Pesticide residues 4347/196**  
**Veterinary drugs residues 610/75**

**個別食品規格 191**  
**ガイドライン 73**  
**実施規範 51**  
**汚染物質 17**  
**添加物 3770/301**  
**残留農薬 4347/196**  
**残留動物用医薬品 610/75**

**5 year strategic plan**  
**Vision + goals + objectives + actions**  
**Contributing to SDGs**  
**Rules and procedures**  
**Inclusiveness**  
**Transparency**  
**Consensus**  
**Science**

**5年戦略計画**  
**ビジョン+目標+目的+行動**  
**SDGs(持続可能な開発目標)への貢献**  
**ルールと手順**  
**包括性**  
**透明性**  
**コンセンサス**  
**科学**



**Codex Secretariat**

- 7+1 professionals**
- 5 general service**
- 2 seconded officers (Japan and ROK)**
- 1 APO (Germany)**
- 1 Loaned expert (China)**
- 5 consultants**

**コーデックス事務局**

- 7+1 専門職員**
- 5 一般事務職員**
- 2 国からの派遣職員(日本と韓国)**
- 1 準専門職員(ドイツ)**
- 1 派遣専門家(中国)**
- 5 コンサルタント**

**Codex secretariat budget**

**50% - 8.8 mio USD (80% FAO and 20% WHO)**  
**&**  
**50% - Codex Host Governments**  
**(not counting scientific advice!)**

**コーデックス事務局の予算**

**50% - 8.800万USD (80% FAO と 20% WHO)**  
**&**  
**50% - コーデックス議長国政府**  
**(科学的助言については別予算!)**

- AUSTRALIA (CCFICS - 1y)
- CHINA (CCFA - 1y, CCPR - 1y)
- COLOMBIA (CCS - cor)
- FRANCE (CCGP - as needed)
- GERMANY (CCNFSDU - 1y)
- HUNGARY (CCMAS - 1y)
- INDIA (CCSCH - 1.5y)
- KOREA Rep. Of (TFAMR - 1y)
- MALAYSIA (CCFO - 2y)
- MEXICO (CCFFV - 1.5y)
- NETHERLANDS (CCCF - 1y)
- NEW ZEALAND (CCMMP - cor)
- USA (CCFH - 1y, CCRVDF - 1.5y, CCPFV - 2y, CCCPL - cor)

- オーストラリア(食品輸出入検査・認証制度部会 - 1年)
- 中国(食品添加物部会 - 1年, 残留農薬部会 - 1年)
- コロンビア(糖類 部会 - 休会)
- フランス(一般原則部会 - 必要に応じて)
- ドイツ(栄養・特殊用途部会 - 1年)
- ハンガリー(分析・サンプリング法部会 - 1年)
- インド(スパイス・料理用ハーブ 部会 - 1.5年)
- 韓国(薬剤耐性菌特別部会 - 1年)
- マレーシア(油脂部会 - 2年)
- メキシコ(生鮮果実・野菜部会 - 1.5年)
- オランダ(汚染物質部会 - 1年)
- ニュージーランド(乳・乳製品部会 - 休会)
- 米国(食品衛生部会 - 1年, 食品残留動物用医薬品 部会 - 1.5年, 加工果実・野菜部会 - 2年, 穀物・豆類部会 - 休会)

## Past and present challenges to consensus

Green oranges  
Labeling of GM food  
Growth promoters  
Food additives  
Vitamins  
Follow up formula  
Processed cheese

## コンセンサス形成における過去と現在の課題

グリーンオレンジ  
遺伝子組換え食品の表示  
成長ホルモン  
食品添加物  
ビタミン  
乳児用調製乳  
プロセスチーズ



Colorful food



カラフルな食品



Food with colour



色のついた食品

**Colorful food**

- Hygiene – SPS
- Size – TBT
- Label – TBT
- Residues - SPS

**カラフルな食品**

- 衛生 – SPS
- サイズ – TBT
- 表示 – TBT
- 残留値 - SPS

**Food with colour**

- GFSAs (tables)
- safe maximum limit
- SPS
- GFSAs (Preamble)
- not mislead consumers
- TBT

**色のついた食品**

- 食品添加物に関する一般規格 (GSFA) (表)
- 安全な最大基準値
- SPS
- GFSAs (全文)
- 消費者誤認を招かないように
- TBT

**Winds of change ...**

- More people
- More food travelling the world
- More countries entering the world market
- More variety and new production methods
- More health and safety awareness in the population
- New sales channels
- =
- More need for harmonized rules to ensure food safety and quality, reduce food waste and make business possible

**変化の波 ...**

- 人口の増大
- 世界的な食品の移動の増大
- 世界市場への参入国の増加
- 多様で新たな生産手法の増加
- 公衆の健康と安全意識の高まり
- 新たな販売経路
- =
- 食品安全と質の確保
- 食品廃棄の削減
- ビジネスとして成り立つようにするための
- 調和したルールの必要性が高まる



## Codex challenges and opportunities

### Be strategic

Be faster than ... 4.2 years

Remain inclusive and transparent

while finding consensus in a heterogeneous membership

All who want to participate can participate

Deal with emerging issues

(new diseases, food fraud, new products, new sales channels)

Private standards are an opportunity

= Work together, use new tools, use new partnerships

## コーデックスの課題とチャンス

戦略的であるべき

4.2年よりも迅速に

異なる加盟主体のコンセンサスを模索しながらも

包括性と透明性を維持

参加したい人は誰でも参加できる

新たな問題に対応

(新たな疾病, 食品偽装, 新たな食品, 新たな販売経路)

プライベートスタンダードは良い機会

= 協力し,

新たなツールや新たなパートナーシップを活用

All actors in the food supply chain need to work together towards the ultimate goal of safe, good food in every home

すべての家庭に安全で良い食品がいきわたるという究極の目的のため、食品のサプライチェーンにかかわるすべての関連主体は協力しなければならない



Food and Agriculture Organization of the United Nations



World Health Organization

WEBSITE: [www.codexalimentarius.org](http://www.codexalimentarius.org)  
TWITTER: #faowhocodex



Food and Agriculture Organization of the United Nations



World Health Organization



Food and Agriculture Organization of the United Nations



World Health Organization

WEBSITE: [www.codexalimentarius.org](http://www.codexalimentarius.org)  
TWITTER: #faowhocodex



Food and Agriculture Organization of the United Nations



World Health Organization

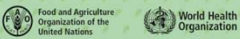

**C O D E X** A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

World Health Organization  
Food and Agriculture Organization of the United Nations

**The International Symposium on Food Safety  
Future Prospects and Challenges in Codex Alimentarius**

**The Present and the Future of Codex**

9<sup>th</sup> March 2018 – Tokyo, Japan  
Guilherme Antonio da Costa Júnior  
Chairperson, Codex Alimentarius Commission  
guilherme.costa@agricultura.gov.br  
ggguilherme@hotmail.com

**C O D E X** A L I M E N T A R I U S  
International Food Standards

World Health Organization  
Food and Agriculture Organization of the United Nations

**食品安全に関する国際シンポジウム  
コーデックス委員会の将来の展望と課題  
(仮訳)**

**コーデックスの現状と将来**  
2018年3月9日 – 東京  
ギリアム アントニオ ダ コスタ Jr  
Guilherme Antonio da Costa Júnior  
コーデックス委員会 議長  
guilherme.costa@agricultura.gov.br  
ggguilherme@hotmail.com




**Codex Alimentarius: Today and Tomorrow**

International Context

- How will we feed 9 billion people in 2050?
- How can we strategically plan it?




**コーデックス委員会: 今日と明日**

国際的文脈

- 2050年にいかにして90億人の食料を賄うか?
- いかにして戦略的に計画を立てるか?




**Codex Alimentarius: Today and Tomorrow**

International Context

- Modifications in Agricultural Practices
- Modifications in food processing techniques
- Emergence of new industrialized products
- Widespread consumption of ultra-processed foods



**コーデックス委員会: 今日と明日**

国際的文脈

- 農業慣行の変化
- 食品加工技術の変化
- 新たな工業製品の出現
- 機能性食品の広範な普及



## Codex Alimentarius: Today and Tomorrow

### International Context

- ❑ Increasing demand for food that places further pressure on finite resources
- ❑ Complex food supply chain
- ❑ Increased International trade of food/ingredients
- ❑ Increased human transit
- ❑ Population dietary habit changes



## コーデックス委員会: 今日と明日

### 国際的文脈

- ❑ 限りある資源にさらなる負荷をもたらす食糧需要の増大
- ❑ 複雑な食品のサプライチェーン
- ❑ 食品・材料の国際貿易の増大
- ❑ 人の移動の増大
- ❑ 食生活生活・慣習の変化



➤ **lack of FS control**

➤ **foodborne diseases**

➤ **Thousands of deaths**

➤ **Unemployment**

➤ **Economic crisis**

・ 食品安全管理の欠如

・ 食品由来の疾病

・ 大量の死亡

・ 失業

・ 経済危機

## Codex Alimentarius: Today and Tomorrow

### Future...?

- ❑ Short term?
- ❑ Medium term?
- ❑ Long term?



## コーデックス委員会: 今日と明日

### 未来は...?

- ❑ 短期的に?
- ❑ 中期的に?
- ❑ 長期的に?



**Codex Alimentarius Strategic Plan**

- Strategic Vision Statement
- Codex Core Values
- Strategic Goals
- Objectives
- Activities
- Responsible Party
- Time Line
- Expected Outcome
- Measurable Indicators

**コーデックス委員会の戦略計画**

- 戦略的ヴィジョンの表明
- コーデックスの中核的価値
- 戦略的 目標
- 目的
- 活動
- 責任を持つべき 主体
- スケジュール
- 期待される 成果
- 計測可能な 指標

The Importance of the Codex Strategic Plan  
The Strategic Goals  
“The four Goals of the Strategic Plan 2014-2019 were still valid and relevant for the new Strategic Plan”

- ❑ Strategic goal 1: Establish international food standards that address current and emerging food issues  
*Prioritization*
- ❑ Strategic goal 2: Ensure the application of risk analysis principles in the development of Codex standards  
*Science*
- ❑ Strategic goal 3: Facilitate the effective participation of all Codex Members  
*Inclusiveness*
- ❑ Strategic goal 4: Implement effective and efficient work management systems and practices  
*Improvement*

コーデックス戦略計画の重要性  
戦略的目標  
“2014-2019の4つの戦略計画は新たな戦略計画においても有効で関連性があった”

- ❑ 戦略目標1: 現在そして新たに生じる食品に関連する問題についての国際食品規格の策定  
*優先事項*
- ❑ 戦略目標2: コーデックス基準を策定する際にリスクアナリシスの原則の適用の保証  
*科学*
- ❑ 戦略目標3: コーデックスメンバーの効果的な参加の促進  
*包括性*
- ❑ 戦略目標4: 効果的かつ効率的作業管理システムと活動の実施  
*改善*

The Importance of the Codex Strategic Plan  
The Draft Strategic Goals of the Codex Strategic Plan 2020 – 2025 - CX/EXEC 17/74/3

- ❑ Strategic Goal 1: Codex standards address Members’ demonstrated current, emerging and critical issues.  
*Prioritization*
- ❑ Strategic Goal 2: Codex standards are based on science and risk analysis principles.  
*Science*
- ❑ Strategic Goal 3: Codex standards are globally used.  
*Visibility and awareness  
SDGs*
- ❑ Strategic Goal 4: All Codex Members participate effectively in Codex work.  
*Inclusiveness*
- ❑ Strategic Goal 5: Codex work management systems and practices are effective and efficient  
*Improvement*

コーデックス戦略計画の重要性  
コーデックス戦略計画2020 – 2025の草案における戦略目標 - CX/EXEC 17/74/3

- ❑ 戦略目標1: コーデックス基準がメンバーが示す現在そして新たな重要な問題をカバーしている。  
*優先事項*
- ❑ 戦略目標2: コーデックス基準が科学に基づき、リスクアナリシスの原則に基づいている  
*科学*
- ❑ 戦略目標3: コーデックス基準が国際的に利用される  
*目に見えた活動・認知度の向上と意識・関心の喚起  
SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)*
- ❑ 戦略目標4: コーデックスの活動にすべてのコーデックスメンバーが効果的に参加する  
*包括性*
- ❑ 戦略目標5: コーデックスの作業管理システムと活動が効果的かつ効率的である  
*改善*

The Importance of the Codex Strategic Plan

The Strategic Goals

“The four Goals of the Strategic Plan 2014-2019 were still valid and relevant for the new Strategic Plan”

□ Strategic goal 1: Establish international food standards that address current and emerging food issues

**Prioritization**

Examples of Recent Codex Accomplishments

**On Food Contaminants**

- Amendment to the **MLs for Lead and Arsenic** in Edible Fats and Oils (Fish Oils) (CODEX STAN 193-1995)
- **MLs for Lead** in Selected Processed Fruits and Vegetables (Pulses, Jams, Jellies and Marmalades, Preserved Tomatoes, Canned Chestnuts and Canned Chestnut Puree) (CODEX STAN 193-1995)
- Code of Practice for the Prevention and **Reduction of Arsenic Contamination in Rice**
- Annex on Ergot and Ergot Alkaloids in cereal grains (Annex to the Code of Practice for the **Prevention and Reduction of Mycotoxin Contamination in Cereals** (CAC/RCP 51-2003)

コーデックス戦略計画の重要性

戦略的目標

“2014-2019の4つの戦略計画は新たな戦略計画においても有効で関連性があった”

□ 戦略目標 1: 現在そして新たに生じる食品に関連する問題についての国際食品規格の策定

**優先事項**

最近のコーデックスの成果事例

**食品汚染物質に関して**

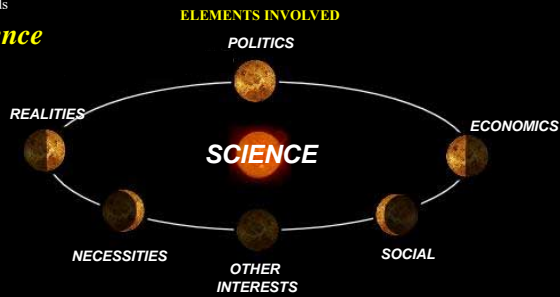
- 食用油脂(魚油)の鉛とヒ素の**最大基準値**の改訂 (食品及び飼料中の汚染物質及び毒素に関する一般規格CODEX STAN 193-1995)
- 特定の果実加工品及び野菜加工品(豆、ジャム、ゼリー及びマーマレード、トマト缶、栗及び栗ピューレの缶詰)中の鉛の**最大基準値**(CODEX STAN 193-1995)
- コメ中のヒ素汚染の防止及び低減のための**実施規範**
- 穀類中のかび毒汚染の防止及び低減に関する**実施規範**(CAC/RCP 51-2003)の穀類中の麦角及び麦角アルカロイドに関する付属書

The Importance of the Codex Strategic Plan

The Strategic Goals

Strategic goal 2: Ensure the application of risk analysis principles in the development of Codex standards

**Science**

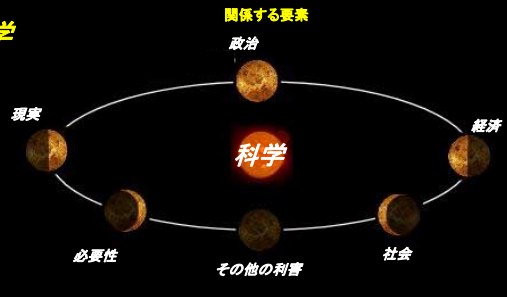


コーデックス戦略計画の重要性

戦略的目標

戦略目標2: コーデックス基準が科学に基づき、リスクアナリシスの原則に基づいている

**科学**



ONU



FAO

OMS

**Codex Alimentarius**

**RISK ASSESSMENT**

**JECFA**  
The Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives

- > Additives to Foods
- > Veterinary Medications
- > Contaminants

**JMPR**  
Joint FAO/WHO Meetings on Pesticide Residues

- > Agricultural pesticides

**JEMRA**  
Joint FAO/WHO Expert Meeting on Microbiological Risk Assessment

- > Microbiology



国連



FAO

WHO

**科学**

**コーデックス委員会  
Codex Alimentarius**

**リスク評価**

**JECFA**  
FAO/WHO 合同食品添加物専門家委員会

- > 食品添加物
- > 動物用医薬品
- > 汚染物質

**JMPR**  
FAO/WHO 合同農薬残留専門家会議

- > 農薬

**JEMRA**  
FAO/WHO 合同微生物学的リスク評価専門家会議

- > 微生物

## Science

- ❑ Engagement of scientific and technical expertise of **Members**
- ❑ High priority from FAO and WHO to identify the provision of scientific advice and allocate sufficient resources for the FAO/WHO expert advice
- ❑ Data submission in response to calls from FAO/WHO expert bodies.
- ❑ FAO and WHO support programs aimed at enhancing the capacity of **developing countries** to generate, collect and submit data
- ❑ Participation of technical and scientific experts from **Member countries**

## 科学

- ❑ **メンバー**の科学的・技術的専門性の関与・取り込み
- ❑ FAOとWHOは科学的アドバイスの規定を明確化することを最重課題とし、専門家の助言を得るに十分な資源を配分
- ❑ FAO/WHO専門家会議からの要請に対して**データ**提供
- ❑ FAOとWHOは**途上国**がデータを創出、収集し提供する能力を向上させるためのプログラムを支援
- ❑ **メンバー国**の技術的・科学的専門家の参加

### ❑ The Importance of the Codex Strategic Plan

#### The Strategic Goals

“The four Goals of the Strategic Plan 2014-2019 were still valid and relevant for the new Strategic Plan”

Strategic goal 3: Facilitate the effective participation of all Codex Members

#### Inclusiveness

- ❑ National Codex Committees
- ❑ Capacity building
- ❑ Document analysis
- ❑ Written comments
- ❑ Proposals
- ❑ Electronic forum
- ❑ Distribution of Codex documents in the Official Commission languages
- ❑ Co-hosted meetings



### ❑ コーデックス戦略計画の重要性

#### 戦略目標

“2014-2019の4つの戦略計画は新たな戦略計画においても有効で関連性があった”

#### 包括性

- ❑ 国内のコーデックス部会
- ❑ 能力構築
- ❑ 文書の分析
- ❑ 書面のコメント
- ❑ 提案
- ❑ 電子フォーラム
- ❑ 公用語によるコーデックス文書の配布
- ❑ 部会・会議の共催



### The Importance of the Codex Strategic Plan

#### The Strategic Goals

“The four Goals of the Strategic Plan 2014-2019 were still valid and relevant for the new Strategic Plan”

- ❑ Strategic goal 4: Implement effective and efficient work management systems and practices

#### Improvement

*Assess benefits and, where cost effective, implement new technology to improve Codex communication, work flow, and management of activities.*

### コーデックス戦略計画の重要性

#### 戦略的目標

“2014-2019の4つの戦略計画は新たな戦略計画においても有効で関連性があった”

- ❑ 戦略計画 4: 効果的かつ効率的な作業管理システムと活動の実施

#### 改善

*便益を評価し、費用対効果がある場合は、コーデックスにおけるコミュニケーション、作業の流れと活動の管理を改元するための新たな技術を導入する。*

*Visibility and awareness*  
The dissemination and practical application of Codex Standards for the whole food and feed production chain

- ❑ National Codex Committees
  - ❑ Governmental Sector, Academia, Private Sector (primary and industrial production, wholesalers, retailers), Consumers Associations, etc.
  - ❑ Harmonization



*目に見えた活動・認知度の向上と意識・関心の喚起*  
すべての食品及び資料の生産チェーンにおけるコーデックス基準の普及と適用

- ❑ 国内コーデックス委員会
  - ❑ 行政セクター, アカデミア, 民間セクター (一次生産、食品加工産業、卸し、小売り), 消費者団体など.
  - ❑ 調和



The dissemination and practical application of Codex Standards for the whole food and feed production chain

- ❑ Communication projects
  - “Digestible” information
  - Education
- ❑ Public-Private partnership (PPP)
- ❑ Training programs (public + private)

すべての食品及び資料の生産チェーンにおけるコーデックス基準の普及と適用

- ❑ コミュニケーションプロジェクト
  - “理解可能な” 情報
  - 教育
- ❑ 官民連携パートナーシップ (PPP)
- ❑ トレーニングプログラム (官 + 民)



## Codex Alimentarius

- **Future...work of**
- Members
- Chairs of the Committees
- Secretariat
- FAO/WHO expert bodies and consultations
- Chair and Vice-Chairs

## コーデックス委員会

- **将来の...作業**
- 加盟主体
- 部会の議長
- 事務局
- FAO/WHO合同専門家会議
- 議長と副議長

## Final comments

- **Codex Alimentarius: Today and Tomorrow**
- What we need to do to follow the paradigm "First things first?"
  - **Prioritization (Strategic Goal 1)**
- On which basis need we do it?
  - **Science (Strategic Goal 2)**
- Who should participate?
  - **Inclusiveness (Strategic Goal 3)**
- What needs to be done?
  - **Improvement (Strategic Goal 4)**

## 最後に

- **コーデックス委員会: 今日と明日**
- 「大事なことをまずする」という考えに従うなら何をすべきか?
  - **優先順位 (戦略目標 1)**
- 何に基づいて実施すべきか?
  - **科学 (戦略目標 2)**
- 誰が参加すべきか?
  - **包括性 (戦略目標 3)**
- 何がなされるべきか?
  - **改善 (戦略目標 4)**

**STRATEGY**

**CODEX**

Commitment of **all** parties involved is mandatory!

**戦略**

**CODEX**

参加する**すべての**主体・団体のコミットメントが不可欠!



## Codex Alimentarius: **Today** and **Tomorrow**

### ❑ **Future...?**

- ❑ Short term?
- ❑ Medium term?
- ❑ Long term? **Or...**
- ❑ **Today? Now?**



## コーデックス委員会: **今日** と **明日**

### ❑ **未来は...?**

- ❑ 短期的に?
- ❑ 中期的に?
- ❑ 長期的に?**あるいは..**
- ❑ **今日? 今?**



Australian Government  
Department of Agriculture  
and Water Resources

# CCFICS

## Challenges, future developments



Fran Freeman  
March 2018

Australian Government  
Department of Agriculture  
and Water Resources

# CCFICS

## 課題 将来の展望 (仮訳)



フラン フリーマン  
2018年3月

### Presentation Overview

- Overview of CCFICS
- CCFICS Achievements
- Current work
- Emerging issues
- Future Challenges



### プレゼンテーション概要

- CCFICSの概要
- CCFICSの業績
- 現在の作業
- 新たな問題
- 将来の課題




### Overview of the Codex Committee on Food Import and Export Inspection and Certification Systems (CCFICS)

- established in 1991 in response to an identified need to address impediments to food trade relating to import/export:
  - Complying with food safety demands of importing countries
  - Satisfying certification requirements of importing country countries



### コーデックス食品輸出入検査・認証制度部会 (CCFICS)の概要

- 食品貿易における輸出入上の問題に取り組む必要性が明らかになったことから、1991年に設置
  - 輸入国の食品安全に関する要求に従う
  - 輸入国の認証要件を満たす



## CCFICS: what does it do?

- Develop principles and guidelines for:
  - food import and export inspection/certification;
  - application of *measures* by CAs to provide assurance that food comply with requirements;
- Develop guidelines for utilisation of QA systems
- Develop guidelines and format criteria for official certificates
- Make recommendations for information exchange

7

## CCFICS: 何をしている?

- 次に関する規範及びガイドラインを策定:
  - 食品輸出入検査・認証制度
  - 食品が要求事項を満たしていることを保証するための、当局 (Competent Authorities) による措置の適用
- 品質保証システムの利用のためのガイドラインを策定
- 公的な証明書に関するガイドラインと様式の基準を策定
- 情報交換に関する勧告

8

## Overview of CCFICS texts

CCFICS texts are principles-based international standards that:

- protect the health of consumers and ensure fair practices in the food trade;
- are least trade restrictive;
- are science-based;
- provide for equivalence; and
- are WTO consistent



## CCFICSの文書の概要

CCFICSの文書は、原則に基づく国際規格であり、

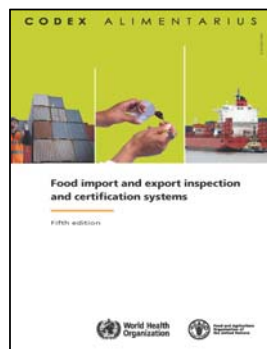
- 消費者の健康を保護し、公正な食品貿易を保証する
- 必要以上に貿易制限的でない
- 科学に基づく
- 同等性を提供する
- WTO整合的である



## Overview of CCFICS texts cont.

CCFICS is guided by the following principles:

- Fitness for purpose
- Risk assessment
- Non-discrimination

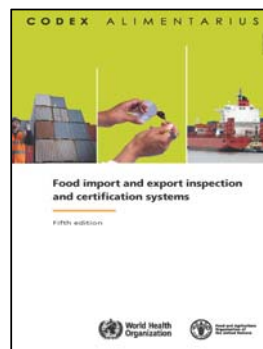


11

## CCFICSの文書の概要

CCFICSは以下の原則に基づいている

- 目的への適合性
- リスクアセスメント
- 無差別



12

Adopted CCFICS texts cover topics such as:

- National Food Control Systems
- Food Import Control Systems
- Certification
- Traceability
- Exchange of Information
- Monitoring Performance of National Food Control Systems
- Equivalence e.g. of Sanitary Measures, of agreements

採択されたCCFICSの文書は  
次のような事項をカバーしている

- 国の食品管理システム
- 食品輸入管理システム
- 証明書
- トレーサビリティ
- 情報交換
- 国の食品管理システムの規制面での実施状況のモニタリング
- 衛生上の措置の同等性、同等性の合意

### Challenges

- Role of technology
  - Exchange of information
    - Food safety emergency situations
    - Rejections of imported food
    - Electronic certification
- Changing approach to providing assurances
  - Preventative controls and outcome-based systems
  - Use of third parties
- Approaches to assessing a food control system
  - Systems recognition
  - Equivalence
  - Other tools



### 課題

- 技術の役割
  - 情報交換
    - 食品安全上の緊急事態
    - 輸入食品の拒否事案
    - 電子証明
- 保証を与えるアプローチの変化
  - 予防的管理と結果に基づいたシステム
  - 第三者認証組織の利用
- 食品管理システムを評価するためのアプローチ
  - システム認定
  - 同等性
  - その他のツール



### Emerging global issues

- New and evolving global food production technologies
- Improved analytics and testing technologies
- Increasing electronic transactions and ICT capabilities



### 新たな国際的な問題

- 新しく、進化する国際的な食料生産技術
- 改善された分析及び試験技術
- 電子取引とICT機能の増加



### Emerging global issues (continued)

- An ever increasing need to ensure consumers are protected from unsafe foods as new risks emerge
- Increased focus on food integrity/ authenticity
- New approaches to food safety, including preventative and outcomes-based systems
- Evolving role of competent authority



### 新たな国際的な問題

- 新たなリスクが発生した際に安全でない食品からの消費者保護の必要性の高まり
- 食品の清廉性(integrity)/信憑性(authenticity) への関心の増大
- 予防、結果に基づくシステムを含む食品安全への新たなアプローチ
- 規制当局の役割の発展



### Current work under CCFICS

- Development of guidance on the use of **systems equivalence**
- Revision of the guidelines for Design, Production, Issuance and Use of General Official Certificates to include paperless use of **electronic certificates**
- Development of guidance on regulatory approaches to **third party assurance schemes** in food safety and fair practices in the food trade
- Discussion paper on Food integrity and food authenticity (“**food fraud**”)
- Discussion paper on **emerging issues**



### CCFICSにおける現在の作業

- **システムの同等性**の使用に関するガイダンスの策定
- ペーパーレス**電子証明**を取り入れるため、公式証明書の一時的フォーマット及び証明書作成と発行と利用に関するガイドラインの改訂
- 食品安全及び食品貿易の公正な慣行における**第三者認証スキーム**への規制アプローチに関するガイダンスの策定
- 食品の清廉性/信憑性(**食品偽装**)に関する討議文書
- **新たな課題**に関する討議文書



### Future issues

- Increased speed of distribution of food
- Ensuring effective and efficient controls to mitigate increasing risks and to meet consumer demands and perceptions
- Food security (importance of risk-based systems to avoid rejecting safe food).
- New thinking in terms of food control systems, and assurances



### 将来の課題

- 食品の流通速度の上昇
- 増加するリスクを軽減し、消費者の要求と消費者意識を満たすための効果的かつ効率的な管理の確保
- 食料安全保障(安全な食品の拒否を避けるため、リスクに基づいたシステムの重要性)
- 食品管理システムと保証に関する新しい考え方



## Making Codex more efficient – CCFICS trials new technology

Physical Working Group held in Chile, 12-14 December 2017

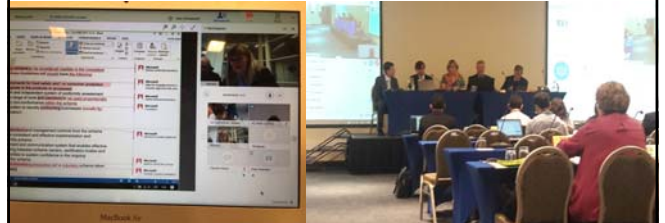
Remote participants were able to engage in the discussion and contribute to documents in real-time e.g. Norway, Thailand, Uruguay.



## コーデックスをより効率的に– CCFICS は新しい技術を試用する

チリで開催された物理的作業部会（2017年12月12～14日）

通信回線を介しての参加者はディスカッションに参加し、リアルタイムで文書に貢献することができた。（例：ノルウェー、タイ、ウルグアイ）



## Conclusion

- CCFICS will continue to identify and respond to emerging challenges and issues that may arise in the context of inspection and certification of food.
- CCFICS will continue to include future challenges and emerging issues as a standing item on its agenda.



## 結論

- CCFICSは今後も、食品の検査と認証において生じ得る新たな課題と問題を特定し、対応していく。
- CCFICSは“今後の課題と新たな課題”を、常に本部会の議題に含める。



THANK YOU



ありがとうございました





## The Codex Committee on Food Labelling (CCFL)

The challenge of Codex:

- Developing a global standard that reflects the interests of all Codex members.

The challenge of CCFL:

- The interests of Codex members – different for different people
- The label is both a means to convey information to consumers and a way for businesses to market their product
- Labelling can be personal and emotional
- Labelling topics can be complex and polarising, for example organic and biotech labelling

## コーデックス食品表示部会 (The Codex Committee on Food Labelling, CCFL)

コーデックスの課題:

- 全てのコーデックスメンバーの関心を反映する、一つの国際規格を策定すること。

CCFLの課題:

- コーデックスメンバーの関心 – 人によって異なる
- 表示は消費者に情報を伝達する手段であり、かつ事業者にとって自分の製品を取引するための方法である
- 表示は個人的(主観的)で感情的になり得る
- 表示の話題は複雑で対立を生じうる(例: 有機とバイオテクノロジー応用食品の表示)

## CCFL Background

The CCFL:

- drafts provisions on labelling applicable for all foods.
- hosted and chaired by Canada since its establishment in 1965
- is attended by approximately 250 delegates, represented by 60 member countries, one member organization (the European Union), and over 20 international non-governmental organizations,

i.e., there are many views and interests to unify towards one standard!

## CCFLの背景

CCFLは:

- 全ての食品に適用される表示に関する規定を起草する。
- 1965年に設置されて以来、カナダがホストし議長を務めている。
- 60のメンバー国、1メンバー組織(欧州連合)及び20を超える国際非政府組織から約250名の代表者が出席する。

つまり、一つの規格策定のために統一すべき多数の意見や関心がある!

## CCFL Topics

- CCFL has developed a number of food standards, guidelines and recommendations including the labelling of prepackaged foods, nutrition labelling, nutrition and health claims, biotech labelling, and organically produced foods.
- Most of these topics are complex and demonstrate:
  - the intersect between science and culture
  - expression of different needs and views
  - the highly personal nature of labelling
  - the influence of labelling on health, safety, trade, and economic outcomes
  - fueled by consumer perceptions of innovation

## CCFLのトピックス

- CCFLは、包装食品の表示、栄養表示、栄養及び健康強調表示、バイオテクノロジー応用食品の表示及び有機食品の表示を含む多数のコーデックス食品規格、ガイドライン及び勧告を策定してきた。
- これらの多くは複雑で、次のことを明らかにしている:
  - 科学と文化の交差
  - 異なるニーズと意見の現れ
  - 表示の高度に主観的な特性
  - 表示の健康、安全、貿易及び経済的結果への影響
  - 革新技術に対する消費者認識に煽られる

## Achievements at CCFL

- Guidelines on Nutrition Labelling
- Guidelines for Use of Nutrition and Health Claims
- General Guidelines on Claims
- Implementation of the WHO Global Strategy on Diet, Physical Activity and Health
- General Standard for the Labelling of Prepackaged Foods: revision to date marking – for adoption at Step 8 at the 41<sup>st</sup> CAC
- Compilation of Codex Texts Relevant to Labelling of Foods Derived from Modern Biotechnology

## CCFLの業績

- 栄養表示に関するガイドライン
- 栄養及び健康強調表示の使用に関するガイドライン
- 強調表示に関するコーデックス一般ガイドライン
- WHO食事、運動及び健康に関する世界戦略の実施
- 包装食品の表示に関するコーデックス一般規格: 日付表示の改訂 – 第41回総会にステップ8での採択を求めることに合意
- モダンバイオテクノロジー応用食品の表示に関するコーデックステキストの編纂

## Current Work at CCFL

- Labelling of non-retail containers
  - To harmonize guidance into a single document, rather than in individual standards
- Front of pack nutrition labelling
  - Guidance for simplified nutrition information on the front of a package label
  - To provide meaningful information to consumers and ensure fair trade practices
  - A good example of bridging science and values

## CCFLの現在の作業

- 卸売用食品の包装の表示
  - 個別の複数基準にするよりも、単独の文書にガイダンスをまとめる
- 栄養に関する包装の前面表示
  - 包装前面の表示における簡略化された栄養情報に関するガイダンス
  - 消費者にとって意味のある情報を提供し、かつ公正な貿易慣行を確保する
  - 科学と価値観とを橋渡しするよい例の一つ



## Strategies for Success

- CCFL is an excellent example of how the Codex core values and consensus are applied and put into action
- The application of Codex core values is essential:
  - Collaboration
  - Inclusiveness
  - Consensus building
  - Transparency

Codex core values & consensus are key to Codex success!

## 成功のための戦略

- CCFLはコーデックスの基本的価値と合意形成がどのように適用され、行動に移されるかの優れた例の一つ
- (次のものを含む)コーデックスの基本的価値の適用は必須:
  - 協同
  - 包括性
  - 合意形成
  - 透明性

コーデックスの基本的価値と合意形成はコーデックスの成功の鍵！

## Consensus requires....

- Time
- Grounding in science
- Active participation by all
- Commitment to the process
- Collaboration and willingness to see other perspectives
- Flexibility & willingness to compromise: not everyone can be 100% satisfied
- Ongoing opportunities for input
- Creative thinking

## 合意形成に必要なもの

- 時間
- 科学の基礎知識
- 全員が積極的に参加すること
- 合意形成過程への関与
- 協同と他者の観点を理解しようとする意欲
- 柔軟性と妥協する意欲: 全員が100%満足することはできない
- 継続的なインプットの機会
- 創造的な思考

## Codex Strategies for Consensus

- Approaches/tools that enable achievement of success
  - Working Groups: electronic & physical, intra-sessional, pre-meetings, in-session
  - Workshops
  - Facilitation
  - Increased dialogue and bridging of interest
- Sharing a common goal and creating an environment that is conducive for achieving consensus
- These help facilitate development of standards and guidelines that all members can support

## コーデックスにおける合意形成戦略

- 成果達成を可能にするアプローチ／ツール
  - 作業部会: 電子的&物理的、会合間、会合前、会合中
  - ワークショップ
  - ファシリテーション
  - 対話の増進と関心の橋渡し
- 共通目標の共有と合意達成を促す環境の形成
- これらは全てのメンバーが支持できる基準及びガイドラインの策定を促進するのに役立つ

## Future Work

- CCFL is becoming more proactive, responding to technology changes and evolving consumer needs.
- In October 2017, the CCFL agreed to develop discussion papers on potential new work, for consideration by the next CCFL (2019) on:
  - Internet Sales/e-commerce (UK, Japan, Chile, India, Ghana)
  - Allergen labelling – updates (UK and USA)
  - Innovation – use of technology in food labelling (Canada)
  - Alcoholic beverages (Russian Federation, EU, Ghana, India and Senegal)
  - Criteria for the definition of “high in” nutritional descriptors for fats, sugars and sodium (Canada and India)
  - Labelling of foods in multipack formats (Columbia)

## 今後の作業

- CCFLはより積極的に、技術の変化と消費者のニーズの変化に対応している。
- 2017年10月、CCFL は次回会合(2019年)までに検討する潜在的な新規作業に関する討議文書を策定することに合意した。その作業は以下のとおり。
  - インターネット販売/eコマースの表示(英国, 日本, チリ, インド, ガーナ)
  - アレルギー表示の更新(英国, 米国)
  - 技術革新を活用した食品表示(カナダ)
  - アルコール飲料の表示(ロシア, EU, ガーナ, インド, セネガル)
  - 脂質・糖類・ナトリウムの「高」表示(カナダ, インド)
  - マルチパックされた製品の表示(コロンビア)

## A Proactive Stance

- A “living paper” will be maintained by the CCFL members, on a rotational basis, to identify emerging issues, priorities, and potential future work
- How can we better identify emerging issues and what role does academia play in Codex?
  - Existing mechanisms for international collaboration
  - Academia may have awareness of emerging issues often before governments
  - Active involvement by academia within national governments
  - Contribution of social science research

## 積極姿勢

- 新たな問題、優先事項や潜在的な将来の作業を特定するため、順番に更新して「生きている文書」とし、それらがCCFLメンバーによって維持されていく
- 我々は新たな問題をどのようによりよく特定できるか、そして、学術界はコーデックスでどのような役割を果たすのか？
  - 既存の国際協同のメカニズム
  - 学術界はしばしば、政府より先に新たな問題に気づく可能性がある
  - 政府内での学術界の積極的な関与
  - 社会科学的研究の貢献

## Future of CCFL

- Going forward, CCFL should continue to exemplify the core values of Codex while developing standards that support the Codex mandate: protecting the health of consumers and ensuring fair practices in the food trade.
- This is done by:
  - Having a clear and shared vision
  - Recognizing what we do well and build on it
  - Respond proactively to the changing global market
  - Work collaboratively to achieve consensus
  - Build new partnerships to better inform work of committee

## CCFLの未来

- 今後、CCFLは、コーデックスの任務(消費者の健康保護と公正な食品貿易の実施の確保)を支持するコーデックス基準を策定しつつ、コーデックスの基本的価値のよい実例となり続けるべきである。
- これは以下のことによりなされる。
  - 明確で、共有されたビジョンを持つこと
  - 何が得意で、そしてそれを基にどんなことを進めるべきかを認識すること
  - 世界市場の変化に対し、積極的に対応すること
  - 合意に達するために協同して取り組むこと
  - CCFLの作業をより知らせるために新たな協力体制を構築すること

# CODEX ALIMENTARIUS

## INTERNATIONAL FOOD STANDARDS

Google



Food and Agriculture  
Organization of the  
United Nations



World Health  
Organization

	About Codex	Codex Texts	Themes	Committees	Meetings	Resources	Publications	News and Events	Login
--	-------------	-------------	--------	------------	----------	-----------	--------------	-----------------	-------

codexalimentarius > News and Events > Japan solidifies its Codex Symposium tradition



### Categories

- Animal Feed (2)
- Antimicrobial Resistance (5)
- codex texts (2)
- Contaminants (2)
- foodsafety (14)
- meetings (13)
- Nutrition and Labelling (1)
- Pesticides (1)
- regional (1)
- trade (4)

## Japan solidifies its Codex Symposium tradition

□ 16/03/2018

The research group - the Health and Labour Science Research Grants, Research Program on Food Safety - Developing International Strategy for Food Safety Regulation based on International Food Standard-Setting Process in Japan –Japan – co-hosted by Japan's Ministry of Health, Labour and Welfare, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, the Consumer Affairs Agency, and Policy Alternatives Research Institute of the University of Tokyo



held its fifth annual Codex-related symposium at the University of Tokyo since 2013.



“

*More people and food traveling around the world mean more countries engaging in the food trade, which brings about greater need for harmonized rules to ensure food safety and quality, reduce food waste and make business possible.*

Codex Alimentarius Secretary Tom Heilandt told the 2018 symposium participants gathered in Tokyo in March.

By introducing that Codex is currently developing the next Codex strategic plan, Guilherme Antonio da Costa Júnior, the Chairperson of the Codex Alimentarius Commission, stated:

“

*To follow the paradigm 'First things first,' we need ensure prioritization in our work, based on sound science, inviting commitment of all parties involved, and make continuous efforts to improve.*

This year's event largely focused on the future of food safety. Delving into the challenges and future developments of the Codex Committee on Food Import and Export Inspection and Certification Systems (CCFICS), the Chair, represented by Fran Freeman of Australia's Department of Agriculture and Water Resources, affirmed:



“

*CCFICS will continue to identify and respond to emerging challenges and issues that may arise in the context of inspection and certification of food.*



About the future prospects and challenges of the Codex Committee on Food Labelling (CCFL), Paul Mayers of the Canadian Food Inspection Agency and the former CCFL Chair, gave an overview of potential new work. In October 2017, the Committee agreed to develop discussion papers for consideration by the 2019 CCFL meeting on topics such as e-commerce; allergen labelling; and criteria for 'high in' when referring to fats, sugars and sodium. He said:

“

*Going forward, CCFL should continue to exemplify the core values of Codex while developing standards that support the Codex mandate: protecting the health of consumers and ensuring fair practices in the food trade.*



This year's event prompted the organizers to look back on how the annual tradition of hosting symposiums has evolved. The first symposium, in 2013, was one of the activities organized in Japan to celebrate Codex's 50th anniversary. Dr Stuart Slorach, the former Chair of the Codex Alimentarius Commission (CAC), and Dr Kazuaki Miyagishima, Director of the *Department of Zoonoses and Food Safety* of WHO, were invited as keynote speakers. Also invited were panelists from industries and consumer organizations to discuss the achievements and challenges of CAC. In 2014, the second annual symposium focused on the role of Codex and Asia, and featured Annamaria Bruno from the Codex Secretariat and Pisan Pongsapitch from Thailand. A year later, in 2015, guests from the European Union (Ella Strickland, Eva Maria Zamora Escribano and Jerome Lepeintre) presented EU perspectives on Codex as well as how Codex activities in the EU were developed.

The symposium in 2017 highlighted scientific advice for Codex. Kazuaki Miyagishima, Director of the WHO Department of Food Safety and Zoonoses, and Japanese experts who participated in JECFA, JEMRA, or JMPR meetings recognized the importance of scientific advice and discussed how to strengthen contributions from Japan in this area such as training for the experts, increasing data submission for risk assessments, etc.



Professor Hajime Toyofuku of Yamaguchi University asserted that the group will continue to invite prominent CAC figures and function as a platform for participants to exchange views and ideas directly, as well as to raise public awareness, and to better understand Codex among stakeholders in Japan. He said:

“

*We look forward to having a continuous collaboration with CAC and members.*

Read more:

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/about-codex/members/detail/en/c/15679/>

[http://pari.u-tokyo.ac.jp/eng/event/smp180309\\_info.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/eng/event/smp180309_info.html)

<p>Contact us</p> <p>About us</p> <p>Copyright / Disclaimer</p> <p>Login</p>		<p>Circular Letters</p> <p>Sitemap</p> <p>Help</p> <p>FAQs</p>		<p>Regional Committees</p> <p>Africa (CCAFRICA)</p> <p>Asia (CCASIA)</p> <p>Europe (CCEURO)</p> <p>332</p>		<p>Follow us on</p> <p>Latin America and the Caribbean (CCLAC)</p> <p>North America and South West Pacific (CCNASWP)</p> <p>Near East (CCNEA)</p> <p> </p>	
--	--	--	--	--	--	--	--

3. これまで厚生労働省の研究班が主催・共催してきたコーデックスイベント

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
日時	2013 年 9 月 24 日 (火) 13:00-16:00 小柴ホール (東京大学本郷キャンパス内)	2014 年 11 月 8 日 (土) 9:30-12:30, 東京大学小柴ホール	2015 年 9 月 12 日 (土) 東京大学弥生 講堂セイホクギャラリー (東京大学農 学部内)	2017 年 3 月 14 日 (火) 東京大学本郷キャン パス、弥生講堂セイホクギャラリー・東京大 学農学部内
タイトル	コーデックス委員会設立 50 周年国際シンポジウム 国際食品規格の役割と日本—グローバル社会にお ける食品安全確保に向けて <sup>1</sup>	国際シンポジウム「食品安全規格の 国際調和とその課題—コーデックス 委員会の役割」 <sup>2</sup>	国際シンポジウム『食品安全国際規格 (コーデックス委員会) のあり方—ヨ ーロッパの視点から』 <sup>3</sup>	「食品安全に関するシンポジウム～リスク評 価の国際的な取組みの紹介」 <sup>4</sup>
主催・後 援・協力	【主催】 東京大学政策ビジョン研究センター、厚 生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研 究事業「国際食品規格策定に係る効果的な検討プ ロセスの開発に関する研究」【後援】 農林水産省	本研究班主催、東京大学政策ビジョ ン研究センター、公共政策大学院 後援：農林水産省	本研究班主催、東京大学政策ビジョ ン研究センター、公共政策大学院の主 催、農林水産省の後援	厚生労働省主催、食品安全委員会・農林水産 省共催、東京大学政策ビジョン研究センター 協力で、本研究班が協賛
	司会進行 松尾 真紀子 (東京大学公共政策大学院・ 政策ビジョン研究センター特任研究員) 開会挨拶 城山 英明 (東京大学公共政策大学院副 院長・政策ビジョン研究センターセンター長・教 授) パート 1. 基調講演 1 Dr. Stuart Slorach (OIE APFSWG ; 動 物食品安全性評価ワーキンググループ議長、コー デックス委員会元議長) 基調講演 2 宮城島 一明 (WHO 食品安全・人畜共	司会進行：松尾 真紀子 (東京大学) 開会挨拶：豊福肇 (山口大学) 基調講演 Ms. Annamaria Bruno (コーデックス 事務局)「Codex とは」 辻山弥生 (農林水産省調査官、コー デックス副議長)「国際交渉と Codex の関係」 Mr Pisan Pongsapitch (農業コモディ ティおよび食品規格基準局執行委員	司会進行：松尾真紀子 (東京大学) 開会挨拶豊福肇 (山口大学) 基調講演 1 「Codex activity in EU」 Eva Maria Zamora Escribano 欧州委員 会 保健衛生・食品安全総局 基調講演 2 「Codex and WTO, from EU perspective」Ella Strickland 欧州 委員会 保健衛生・食品安全総務総局 基 調 講 演 3 「 Codex from international perspective 」 Jerome	司会進行：佐藤愛 (厚生労働省 医薬・生活衛 生局生活衛生・食品安全部企画情報課国際食 品室 室長) 基調講演「FAO と WHO が合同で運営する 専門家会議の役割、日本への期待」WHO 食 品安全部 部長 宮城島 一明 特別講演：食品のリスク評価に関する FAO/WHO 合同専門家会議に参加して日本 が貢献出来ること 食品安全委員会 委員 吉田 緑

<sup>1</sup> <http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp130924.html>

開催報告 [http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp130924\\_rep.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp130924_rep.html)

<sup>2</sup> <http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp141108.html>

開催報告 [http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp141108\\_rep.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp141108_rep.html)

<sup>3</sup> <http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp150912.html>

開催報告 [http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp150912\\_rep.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp150912_rep.html)

<sup>4</sup> <http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/201703/tg/3932>

開催報告 松尾真紀子、小島三奈「開催報告 食品安全に関するシンポジウム～リスク評価の国際的な取組みの紹介～」『食品衛生研究』Vol. 67, No. 8, pp.25-31

	<p>通感染症部長)          パート 2.パネルディスカッション          話題提供 朝倉 健司 (農林水産省消費・安全局 農産安全管理課長)          モデレーター 豊福 肇 (山口大学共同獣医学部病態制御学講座 教授)          登壇者 Dr. Stuart Slorach 宮城島 一明          吉倉 廣 (元コーデックス委員会副議長) 朝倉 健司 (農林水産省消費・安全局 農産安全管理課長)          鬼武 一夫 (日本生活共同組合連合会) 門間 裕 ((一財) 食品産業センター 参与)          閉会挨拶 里村 一成 (京都大学医学研究科 健康政策・国際保健学 准教授)</p>	<p>会副長官)「タイにおけるコーデックス対応及び国内食品規格への適用」          各部会報告          CCFA (コーデックス食品添加物部会) の動向 阪本和広 (農林水産省) CCFH (コーデックス食品衛生部会) の動向 豊福肇 (山口大学教授)          パネルディスカッション</p>	<p>Lepeintre 在北京欧州連合代表部          パネルディスカッションモデレーター：          松尾真紀子 (東京大学公共政策大学院、政策ビジョン研究センター特任研究員) 登壇者 (敬称略)：          Eva Maria ZAMORA ESCRIBANO (基調講演者 1)          Ella STRICKLAND (基調講演者 2)          Jerome Lepeintre (基調講演者 3)          辻山弥生 (農林水産省調査官、コーデックス副議長)          豊福肇 (山口大学 共同獣医学部教授)</p>	<p>国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 客員研究員 河村 葉子          東京農業大学 応用生物科学部 教授 五十君 静信          国際食品安全コンサルタント 山田 友紀子          パネルディスカッション (コーディネーター)          国立医薬品食品衛生研究所 所長 川西 徹 (パネリスト)          ・世界保健機関 (WHO) 食品安全部 部長 宮城島 一明          ・東京農業大学 応用生物科学部 教授 五十君 静信          ・山口大学 教授 豊福 肇          ・食品安全委員会 委員 吉田 緑          ・国際食品安全コンサルタント 山田 友紀子          ・国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 客員研究員 河村 葉子          ・国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 病理部 第一室長 梅村 隆志</p>
<p>目的</p>	<p>国連の FAO (国連食糧農業機関) 及び WHO (世界保健機関) により設置された、国際食品規格の策定機関であるコーデックス委員会は、今年 50 周年を迎えました。本シンポジウムはこれを機に、コーデックス委員会のこれまでの活動を振り返り、その功績を確認するとともに、食品安全を取り巻く今後の国際環境を展望することで、我々がコーデックス委員会との関係のなかで、直面する課題を特定し、さらに、それらへの対応を検討することを目的とします。現在 TPP 交渉等で、国際的貿易やそこにおける国際基準への社会的関心が高まっておりますが、本シンポジウムは、コーデックスにおける国際食品規格の重要性について専門家だけでなく一般消費者も含めて広く議論を共有すること</p>	<p>食品安全の確保は重要課題である。食品がグローバルに流通し、輸入に依存する日本にとって、国内の管理体制やアプローチが国際的にも整合性をもつことは重要である。しかしながら、コーデックス規格の内容についても、その作成過程についても、広く認識されているとは言い難い現状にある。そこで、本シンポジウムでは、実際にコーデックスの現場において活躍する、コーデックス事務局のアンナマリア・ブルーノ氏や、本年コーデックス副議長に日本から選出された辻山弥生氏等から、最新</p>	<p>本シンポジウムは、日本にとってのコーデックスへの取り組みの検討に資するよう、EU の食品安全の担当者から、EU におけるコーデックスへの取り組み等を紹介してもらうことで、コーデックスに関する理解を深めるとともに、議論を共有する場を提供することを目的として開催した。背景には、コーデックスにおける交渉でも重要なアクターである EU が、どのような視点でコーデックスをとらえているのか、コーデックス対応がどのように構築されているのか、を理解することは、国際食品規格策定のプロセスを</p>	<p>コーデックス委員会の策定する国際的な食品の規格基準は、FAO と WHO が合同で運営する専門家会議*によるリスク評価結果や勧告に基づいている。本専門家会議は、科学的中立性を求められ、その決定事項は、各国の食品安全政策に大きな影響を及ぼす重要なものである。           本シンポジウムでは、これら専門家会議の事務局の一翼を担う WHO から担当部長を招き、その活動や目的を概説するとともに、これまで、これらの専門家会議に参加経験のある諸氏を招き、経験を共有する。参加者には、これらの専門家会議の活動に参加するこ</p>

<p>も大きな目的です。</p> <p>基調講演とパネルディスカッションには、当分野における大変著名な専門家をお招きできる運びとなりました。スローラック氏はコーデックスの元議長であり、在任中、コーデックスでは初となる第三者評価を受けて、数々のコーデックスの制度改革に尽力されました。また、宮城島氏は、コーデックス事務局長、OIE の科学技術部長及び事務局次長を歴任し、現在 WHO の食品安全・人畜共通感染症部長を務めており、この分野の実態における課題について深い経験と知見をお持ちです。基調講演では、この両専門家により、コーデックスのこれまでの功績と今後の課題を展望するとともに、対応策、方向性の示唆、問題提起をしていただきます。</p> <p>続くパネルディスカッションでは、まず、これまで長年にわたってコーデックス委員会に日本政府代表団として参加されている朝倉農林水産省消費・安全局農産安全管理課長から、日本政府のコーデックス委員会へのこれまでの取組みについてご説明いただきます。そして、日本のコーデックス活動において様々な側面から尽力されております有識者をお迎えして、コーデックスの重要性を確認するとともに、日本がいかにコーデックスと戦略的に向き合っていけばよいのか、短期的、長期的な視野で議論を行います。</p>	<p>のコーデックスにおける活動やその課題の現状について紹介してもらうことにより、コーデックスの認知度を上げるとともに、日本にとってのコーデックスの意義に関して広く一般に周知することを目的とする。</p>	<p>理解する上でも、日本のコーデックス戦略を考えるうえでも重要なためである。</p>	<p>とにより、間接的に国際的な食品規格の策定に貢献できること、本活動に対する日本人の積極的な貢献が求められていることを知ってもらうことを目的とする。</p>
---	--	---	---